平成29年度第67回高知県芸術祭

KOCHI ART FESTIVAL

たのしんでいこう。

9/19（火） → 12/17（日）

事業実施報告書

県民の文化芸術活動を、支援・発信していきます。

平成29年度第67回高知県芸術祭を顧みて

高知県芸術祭執行委員会
委員長　新納 朋代

今年で67回目を迎えました、『高知県芸術祭』は、広く県民が芸術に親しみ、高知の文化芸術の魅力を再発見、発信する期間として毎年秋に開催しております。今年度は、９月19日（火）～12月17日（日）までを会期とし、期間中、助成事業・主催事業・共催協賛行事として94の行事が県内各地で開催されました。

芸術祭の開幕日である９月19日（火）には、高知県立県民文化ホール（オレンジホール）で、翌日の20日（水）には、香南市のいちふれあいセンター（サンホール）で、昨年に引き続き２度目の開催となる「日露交歓コンサート2017」を開催いたしました。昨年と比較しますと、会場規模が大きくなった為、テレビCM、新聞等の県内メディアを広く活用し、より一層の広報を心がけました。その結果、高知市会場、香南市会場共に多くの来場者に恵まれ大盛況のうちに幕を閉じることができました。公演後のアンケートでは、「こういった機会を増やしてほしい」「毎年開催してほしい」などの要望も多くいただきました。今後もあらゆる形で、県民の皆様が本物の文化芸術に触れる機会を増やしていきたいと思っております。

今年度の芸術祭では、主催事業「日露交歓コンサート2017」・「高知県芸術祭文芸賞」・「一日文化祭」、助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2017」12事業、共催行事19、協賛行事60、の計94の行事が実施されました。共催協賛行事に関しましては、過去数年参加のなかった『放送』『映像』部門での新規参加があり、参加部門にも広がりが見えております。しかしながら一方で、近年、参加団体数の減少がございます。開催日時が芸術祭会期と合わない等の問題もあり、参加を見送られる団体もいらっしゃいますが、どのようにすれば、より多くの文化芸術団体の皆さまにご参加いただけるか、県内の文化芸術団体の皆さまにとって芸術祭参加が秋の恒例行事と位置付けていただけるかを、執行委員会、事務局一丸となり、検討して参りたいと思います。

今年で４年目となります、助成事業「KOCHI ART PROJECTS」に関しましては、５月より県内の文化施設や文化芸術団体へ広く広報周知を行いました。その結果、20の団体・個人よりご応募いただき、審査の結果、12事業への助成を決定致しました。開催地域や部門にも広がりがみられ、事業の主旨であります、「地域貢献や地域の活性化に繋がる企画内容」の実現、事業内容に関しましても充実したものが増加しているように思えます。

また、文学の総合的な公募型文芸賞である「高知県芸術祭文芸賞」は、46回目を迎えました。短編小説・詩・短歌・俳句・川柳の５つの部門で、計537名（1615作品）の応募があり、全体的に応募者数の減少が見られるなか、例年大きな変化が見られなかった短歌部門で、応募者数が前年比1.4倍の増となったことは喜ばしい成果でございました。文芸賞の応募期間は、学生の皆さまにとっては夏休み期間と重なりますので、ぜひこの機会に文芸賞に応募することで文化芸術に親しんでいただけるよう、私共も学校の先生方への声がけなど、より一層広報活動に注力して参る所存です。今後も幅広い世代の皆さまに文芸創作の楽しさを忘れることなく、創作活動を続けていただけるよう、引き続き尽力して参りたいと思います。

11月5日には今年度より新規事業として加わった「一日文化祭」を実施いたしました。高知県立美術館の1F回廊にて高知在住のアーティストによるクラフトマーケットとワークショップを行い、小さなお子様から年配の方まで幅広い世代の方に参加していただけました。ワークショップへの参加や、お気に入りのアーティストの作品を購入している楽しそうな姿を見て、充実した企画が実施できたと感じております。

本報告書では、平成29年度高知県芸術祭の成果をまとめております。各所よりご意見をいただきながら、より一層広報を充実させ、多くの県民に『高知県芸術祭』を承知いただけるよう、高知県芸術祭執行委員会・事務局共に一丸となり努めて参りたいと思っております。今後とも、より一層のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

助成事業「KOCHI ART PROJECTS」：12事業・5,348名

主催事業「高知県芸術祭文芸賞」：537名（1,615作品）
「日露交歓コンサート2017」：1,402名
「一日文化祭（芸事広場）」：452名

共催行事：19行事・152,422名

協賛行事：60行事・91,038名

第67回高知県芸術祭　概要

≪今年度の芸術祭を振り返って≫

今年も、昨年に引き続き2年連続の開催となる『日露交歓コンサート2017』と共に第67回目の高知県芸術祭を開幕いたしました。昨年、多くの県民の皆様より好評をいただいた本事業は、開催地区に『香南市』を加え、会場も新たに開催いたしました。昨年に比べますと、会場の規模が大幅に大きくなることもあり、大変不安もございましたが、公演当日は2会場合わせ約1400名の観覧客に会場まで足をお運びいただくことができました。公演地である『高知市』『香南市』共に地元音楽団体との共演もあり、大いに盛り上がり大好評を期したものでございました。来場者アンケートでは、文面から満足度の高い公演であったことが見られ、多くの県民にクラシック音楽の素晴らしさをお伝えできたのではないかと実感しております。これからも、この縁を大切に文化芸術による国際交流を続けて参りたいと思っております。日露交歓コンサートの開催においてご尽力いただきました、国際音楽交流協会の皆さま、ロシアよりお越しくださいました演奏家の皆さま、関係スタッフの皆さま、本当にありがとうございました。

近年力を入れております広報活動では、引き続き、より多くの方々に伝わりやすく目を引く広報物の作成を心がけ、文化施設や観光施設、駅など県内広範囲へ配布しております。また、今年度は新たな試みとして帯屋町アーケード内に8月～11月の期間、吊り広告でのPRも行いました。高知県芸術祭は67回目ではございますが、まだまだ県民の知名度は高くないのが現実でございます。更に多くの県民の皆様に「高知の秋といえば高知県芸術祭」と思っていただけるよう、事務局としても尽力して参りたいと思っております。

今年で4年目となりました、助成事業『KOCHI ART PROJECTS』では、昨年度より3団体多い12の団体・事業が採択されました。事業の開催地域により広がりも見られ、演劇・美術・音楽・文芸など多くの分野の事業が開催されました。県内の文化芸術団体の皆さまが企画をあたためるだけではなく、実現できるよう、これからも応援して参りたいと思っております。来年度以降も多くの団体の皆さまに挑戦いただけることをお待ちしております。

また、芸術祭参加行事、文芸賞応募作品に関しましては、今年度若干の減少がみられた一方、新規参加団体、応募者も増えており、芸術祭参加行事では過去数年参加のなかった『放送』『映像』部門での参加がございました。文芸賞では『短歌』部門の応募が大幅に増加いたしました。今後も芸術祭、文芸賞共に多くの文化芸術団体、県民の皆さまにご参加いただけるよう、各所へ働きかけて参りたいと思います。

11月5日には、今年度より新規主催事業として『一日文化祭』を開催しました。高知県立美術館開館記念日関連企画として美術館と協働し、高知在住のアーティスト8名によるクラフトマーケットと各種ワークショップを行いました。イベント当日はワークショップ受付に長蛇の列ができるなど大変好評で、文化芸術に触れる新しい機会を創出できたと感じております。

本報告書では、芸術祭主催事業（日露交歓コンサート・文芸賞・一日文化祭）、助成事業「KOCHI ART PROJECTS」、芸術祭共催・協賛行事について、報告を記載しております。是非、ご高覧ください。

開催期間	平成29年9月19日（火）～12月17日（日）
主　　催	高知県・（公財）高知県文化財団
主　　管	高知県芸術祭執行委員会
後　　援	NHK高知放送局・高知新聞社・RKC高知放送・ KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ・ KCB高知ケーブルテレビ・エフエム高知・ KCTV香南ケーブルテレビ（日露交歓コンサートについてのみ）

平成29年度　第67回高知県芸術祭　日程表

4月21日　第１回高知県芸術祭執行委員会（高知県立美術館・１階講義室）
〈開会〉
（1）高知県文化振興課長挨拶
（2）委員の紹介
（3）委員長及び副委員長の選出について
〈報告事項〉
（1）平成28年度高知県芸術祭事業報告について
（2）平成29年度高知県芸術祭事業計画（スケジュール）及び予算について
・高知県芸術祭共催・協賛行事参加募集について
（4）高知県文化芸術振興ビジョンについて
〈議事〉
（1）「KOCHI ART PROJECTS 2017」団体募集について
・「KOCHI ART PROJECTS 2017」の審査方法について
（2）平成28年度高知県芸術祭収支決算報告について
〈その他〉
（1）事務局から事務連絡

《芸術祭参加団体募集のご案内》

5月１日　「KOCHI ART PROJECTS 2017」募集チラシ・要項　発送（募集締切　6月8日）
5月23日　芸術祭参加団体募集案内発送（募集締切　8月21日 ※芸術祭公式ガイドブック掲載希望分 締切：７月３日）
6月14日　「日露交歓コンサート2017」広報チラシ発送
6月30日　第46回高知県文芸賞作品募集チラシ発送（募集締切　9月30日）
7月10日　「日露交歓コンサート2017」観覧募集案内 高知新聞朝刊へ掲載
8月24日　芸術祭公式ガイドブックおよびチラシ兼ポスター発送
9月11日　第２回高知県芸術祭執行委員会（高知県立美術館・２階会議室）
〈議題〉
（1）「KOCHI ART PROJECTS 2017」 助成事業の視察について
（2）「KOCHI ART PROJECTS 2017」 助成事業の審査について
〈報告事項〉
（1）共催、協賛行事の参加状況について
（2）芸術祭広報について
（3）日露交歓コンサートについて
（4）今後の日程について

《「日露交歓コンサート2017」チラシ》

9月10日　『古民家Art＆Live』開催（KAP助成事業）※9月24日迄
9月19日　第67回高知県芸術祭開幕「日露交歓コンサート2017」（高知県立県民文化ホール（オレンジ））開催
9月20日　「日露交歓コンサート2017」（香南市のいちふれあいセンター（サンホール））開催
9月23日　『暮らしの記憶、繋がる思い、紡がれていくことばたち』開催（KAP助成事業）※10月29日迄
9月24日　『SHIMANTO ART CULTURE GUILDs　地域の映画を作ろう！』開催（KAP助成事業）
※10月17日は講演会、12月17日は上映会を開催
9月30日　『八畝AUTUMN FESTA 2017 ―秋は棚田劇場でアートだ―』（KAP助成事業）　※10月1日迄
10月１日　『ねこ石アート展「見て・触れて・作って楽しむ　猫の石」（KAP助成事業）　※11月26日迄
10月14日　『打楽器の祭典Vol.2』（KAP助成事業）
10月16日　第46回高知県芸術祭文芸賞審査会（高知県立美術館・２階会議室）　※10月22日迄（内、５日間）
10月29日　『中岡慎太郎顕彰短歌大会』（KAP助成事業）
11月３日　『鵜来島ボウル研究所』（KAP助成事業）※11月21日迄
11月４日　『いろいろいろを楽しむ演劇』（KAP助成事業）※11月5日迄
11月５日　一日文化祭『芸事広場（ART PLAZA）』（高知県立美術館・1F回廊）
11月11日　『高野農村歌舞伎公演』（KAP助成事業）
11月12日　『書道家 石井誠「生」展』（KAP助成事業）※11月23日迄
11月25日　『二人芝居『絵金縦遊伝～漁り火の向こう～』』（KAP助成事業）※11月26日迄
12月17日　第46回高知県芸術祭文芸賞表彰式（高知県立文学館・文学館ホール）

平成30年
１月28日　助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2017」事業報告会（高知市立自由民権記念館・視聴覚ホール）
３月27日　第３回高知県芸術祭執行委員会（高知県立美術館・２階会議室）
注）KAP … KOCHI ART PROJECTS

《高知県芸術祭公式ガイドブック》

「日露交歓コンサート2017」を終えて

高知県芸術祭執行委員会事務局

「See you again .」この言葉と共に彼らとお別れしてから、約半年後の4月、今年度も高知県の文化芸術の祭典『高知県芸術祭』のオープニングイベントとして『日露交歓コンサート』を開催することが正式に決まりました。昨年度公演を行い、ノウハウは得たつもりではありましたが、やはりなかなか難しいのが現実です。年度の始まりから公演当日に至るまで、あらゆることを議論しました。今年は会場の規模が昨年より3倍以上になることが決まっていましたので、応募方法をどのようにするか、大きな規模のホールを埋めることができるのか、それが今回の最大の課題でした。7月頃からは、観覧者の募集を行う為、地元テレビ番組への出演や新聞への掲載、CM放送、音楽団体や関係各所へのチラシ配布等、いろいろな手段を試みました。反響は思いの他多く、問い合わせも多数いただきました。応募を開始すると、毎日のように入場券希望のハガキが届き、応募を締切する頃には、ほぼ満席の状況となり安堵しました。しかし、集客以外にも課題はたくさんありました。昨年来高いただいた際、演奏家の皆さんが高知県を大変気に入ってくださったという話をお聞きしていましたので、より高知を知っていただき、好きになってもらいたいと思っておりました。そこで、高知県民が海外の方や、県外の方に知ってもらいたい郷土の文化は何だろうと考え、真っ先に思いついたのが、『よさこい』でした。今や、日本全国、海外にまで広がった『よさこい』。それでも、祭りの本場は高知県です。言わば、『よさこい』は高知県民の魂とも言えるのではないだろうかと思いましたので、国際音楽交流協会とも相談したうえで、今回の公演テーマは『よさこい』にしようと決めました。『日露交歓コンサート』では地元団体とのアンコール共演が可能です。せっかくの機会なので、これからの未来を担う若者に本場の音楽を知っていただきたいと思い、今年は、高知県内で活躍する子ども合唱団『高知少年少女合唱団』の皆さんに共演を打診し、共演を決定しました。共演は『よさこい鳴子踊り』の歌と踊りに決まりました。加えて、会場を盛り上げる為の強力な助っ人にもお願いすることとしました。

あっという間に、演奏家の皆さんが来高する日となりました。前日まで台風の動きに悩まされましたが、無事台風も去り、晴天のもと演奏家の皆さまをお迎えすることができました。空港の到着ロビーに彼らの姿が見えた時、大きく手を振ると、笑顔で手を振り返してくれました。そして、再会の喜びと「Welcome to Kochi .」の言葉と共に1年振りの握手をかわしました。

その日の夜は、関係者を交えた『交歓会』を予定していましたが、交歓会の前に少し時間があったので、今回のテーマである『よさこい』を知っていただくため、『高知よさこい情報交流館』へご案内しました。この施設では、よさこいの歴史や、メダル・衣装等をわかりやすく展示しておりますが、最大の魅力は、よさこいの体験ができることでした。実際に演奏家の皆さんにも鳴子を手に持っていただき『よさこい鳴子おどり』を体験していただきました。やはり音楽に精通している演奏家だからでしょうか、初めてとは思えない踊りっぷりに感嘆したものでした。その後、交歓会の会場へ移動し、自慢の食とお酒で高知流おもてなしと共に、『よさこい』をテーマとした居酒屋で高知の雰囲気を思う存分楽しんでいただきました。

公演当日の午前中は、演奏家の皆さんと共に、高知県庁へ表敬訪問に伺いました。この様子は、地元ニュースにも取り上げていただいたので目にした方も多かったのではないでしょうか。彼らの活動を県民の方々に知っていただく良いきっかけになったのではないかと思います。そして開演時間となり、コンサートは、ロシアの民俗楽器『ドムラ』と『バラライカ』の音色で始まりました。公演は、まさに素晴らしいの一言でした。演奏が終わる度に、会場からは割れんばかりの拍手が鳴り響いていました。目を閉じると、ヨーロッパの情景が現れてくるような、穏やかで時に激しい音色は、来場されたお客さんの心をすっかりクラシック音楽のとりこにしてしまったことでしょう。演奏会は、あっという間に終盤にさしかかり、アンコール共演の時間です。舞台裏で準備をしていた、高知少年少女合唱団の生徒さんからはひしひしと緊張が伝わってきました。アンコール共演は、『ふるさと』と、『よさこい鳴子踊り』の歌の共演、フィナーレは『正調よさこい鳴子踊り』での共演となっていました。日本人なら誰もが知っている『ふるさと』をロシアの演奏家の歌と演奏と共に、約1000人の観客も一緒になって歌う大合唱は圧巻でした。音楽に国境はないとはまさにこのことだろうと思います。そして、『よさこい鳴子踊り』。歌が始まると会場がざわつきました。予想通りの反応でした。きっと観客の皆さんは、まさかこの曲が来るとは思ってなかったと思います。合唱団の歌声とソプラノの声が会場に響き渡り、途中からは観客からの手拍子も加わりました。曲が終わると、全員一度退場した後、合唱団の生徒たちの呼びかけで、法被を着用し、鳴子を手に持った演奏家達の登場です。ここで会場のボルテージは最高潮になりました。そして、ソプラノ歌手の掛け声と同時に、皆がよく知る『正調よさこい鳴子踊り』の音楽がスタートし、演奏家、合唱団、そして助っ人として駆けつけてくれた『高知県庁よさこい正調クラブ』の皆さんで、正調よさこい鳴子踊りがはじまりました。会場は、熱気と驚くほどの一体感に包まれ、最後は、会場から大きな大きな拍手をいただきました。アンコール共演の為、数カ月前から、歌や踊りの練習を頑張ってくれた、高知少年少女合唱団の皆さん、そして、踊りで盛り上げてくださった高知県庁よさこい正調クラブの皆さん、舞台裏で頑張ってくれたスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

翌日の、20日には、香南市へ会場を移し、のいちふれあいセンターサンホールにて公演を行いました。高知公演同様、会場規模も大きかった為、香南市教育委員会の職員の皆さまも準備等大変だったと思います。香南市公演でのアンコール共演は『香南ジュニアオーケストラ大人の部』の皆さんによる『南国土佐を後にして』でした。こちらでも大きな盛り上がりとなりました。こういった本格的なクラシック公演はなかなか開催されない為、市民が音楽を嗜む良い機会になったのではないかと思います。香南市公演に際し、ご尽力くださった、香南市教育委員会、のいち中央公民館の皆さま、大変お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

翌日、高知での滞在の締めくくりとして、桂浜を案内しました。ロシアは広く、気候的にも寒い土地である為、あまり近くに泳げる海がないそうです。その為、演奏家の皆さんは海が大好きとのことでした。桂浜へご案内することを伝えた際、「そのビーチは泳げますか？」と質問を受けましたが、そこは残念ながら、「泳ぐのは禁止だよ」とお伝えしたものでした。演奏家の皆さんは、各々、砂浜で遊んだり、貝殻を拾ったり、高い所へ登ってみたりと存分に楽しんでくれたようでした。その情景を見て、もうお別れなんだなと少し寂しい気持ちになったことでした。空港でお別れする際には、高知での公演を思いだして欲しいというのと、また戻ってきてねという気持ちを込めて、『鳴子』のキーホルダーをプレゼントしました。固い握手と別れの言葉を交わした後、彼らは次の公演地へと旅立っていきました。公演は大成功のうちに幕を閉じ、達成感も感じていましたが、やはり、別れは悲しいものだと感じました。

国籍や言語は違うけれど『音楽』を通じて日本の小さな地方都市である高知という土地を知っていただけたこと、多くの県民と心を通わせていただけたことを嬉しく思うと同時に、改めてこういった交流を続けていくことが重要だと思いました。演奏家の皆さんには、これからも是非、ロシアと日本の友好の架け橋として活動を続けていってほしいと強く願います。そして、2年連続で素晴らしいコンサートの公演地に高知県を選んでくださった、国際音楽交流協会の皆さまには改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

また、高知で再会できることを願って。

See you again . またお会いしましょう。

助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2017」

募集要項

平成29年度 第67回高知県芸術祭助成事業

KOCHI ART PROJECTS 2017 募集要項

地域×アート

をコンセプトに高知県内で開催される文化芸術活動に助成等の支援を行います。

対象となる活動

地域住民が主体となって取り組む創造的な文化芸術活動で、その地域の自然や町並み、歴史・文化など地域資源を生かし、新たな地域貢献や地域の活性化につながる企画内容であるもの

平成２９年度高知県芸術祭開催期間中に実施されるもの

●**芸術祭会期／平成29年9月19日（火）ー 平成29年12月17日（日）**

営利を目的としないもの

※事前の準備等に係る費用も助成の対象となります。　※個人でも団体（NPO・実行委員会等）でも応募いただけます。

支援内容

●**助成／1事業あたり上限額 35万円**

※少額（10万円程度）での申請も可能です。
※提出された申請内容と申請額を勘案し助成額を決定いたします。
※過去に助成を受けたことのある団体も応募できます。

支援条件

広報物等に指定クレジットを必ず記載すること。（記載のない場合は助成交付を取り消す場合があります。）

事務局が作成する広報物等への原稿作成協力ができること。

支出経費について領収書を保管、指示があった場合はすぐに提出できること。

指定の様式により実績報告を提出すること。（事業終了後1ヶ月以内。）

後日開催予定の事業実施報告会に必ず参加すること。［平成30年1月28日（日）（予定）］

※指定クレジットは、芸術祭公式ホームページからダウンロードできます。
※採択された事業は高知県芸術祭執行委員等が視察します。
※報告会参加に伴う旅費等の費用は各自で負担ください。
※助成団体のうち、1団体以上は、領収書を含め支出の詳細について確認致します。
※個人情報は、運営上の管理及び団体への連絡の用途に限り、利用させていただきます。

応募方法

募集期間内に、規定の申請用紙に必要事項を記入し、高知県芸術祭執行委員会事務局まで持参、もしくは郵送にてご提出ください。

※申請用紙は、芸術祭公式ホームページからもダウンロードできます。
※申請用紙を送付希望の方は、下記問い合わせ先までご依頼ください。
※応募後、電話等によるヒアリング、追加資料の提出等を求める場合があります。
※過去採択団体の実施報告等は芸術祭公式ホームページに記載しております。申請にあたってご参考ください。

募集期間

●**平成29年6月8日（木）まで**　※当日必着（持参の場合は、17:00 までに提出のこと。）

選考方法

書類選考による審査を行います。なお、必要に応じて代表者等の出席のもとヒアリングを行う場合があります。
［ヒアリングは平成 29 年 6 月 25 日（日）開催予定。］
結果は締切後、一ヶ月以内に郵送にてお知らせいたします。

助成金の交付

所定の請求書提出後２週間以内に、指定先口座に振り込みます。

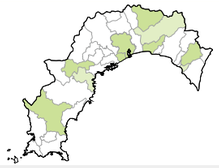
※事務局にて必要と認めた場合に限り、助成決定額の２分の１を超えない範囲で概算払も可能です。

申請書等郵送先

〒781-8123　高知県高知市高須 353-2　（公財）高知県文化財団 内　高知県芸術祭執行委員会事務局　宛

★助成事業紹介★

（平成29年度選考結果　20団体・20事業応募、12団体・12事業選定）



KOCHI ART PROJECTS 2017

古民家Art&Live

主催／なはり浦の会

『森林鉄道から日本一のゆずロードへ』として日本遺産に認定された中芸地域。本イベントでは奈半利町内4ヶ所の古民家にて現代美術家・都築房子氏による地域限定展示会を開催。更に、歴史の息吹きを感じられる演田邸ではgentle(ex.いちむじん)のＬｉｖｅを開催。

古民家Art　現代美術家・都築房子氏による地域限定展示会
日時／9月10日(日)～24日(日)　10時～16時
会場／藤村製絲・高田屋・森家住宅(旧野村茂久馬邸)・なはりの郷（安芸郡奈半利町内）
料金／無料
HP／https://www.neconote.jp/machinami/　問合せ／090-1570-2225(森)

古民家Live　gentle(ex.いちむじん)ライブ
日時／9月23日(土)　14時～16時
会場／演田邸（安芸郡奈半利町内）
料金／1,500円(受付：9月1日より先着40席)

写真／岩根愛「Island in my mind Chieko Sasaki」

WARAKOH think and feel 東北 vol.3 × A→Z（アートゾーン）で考える

暮らしの記憶、繋がる思い、紡がれていくことばたち

主催／藁工ミュージアム
協力／はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト実行委員会、乾久子、いいたてまていの会

東日本大震災により全村避難となった福島県飯舘村。土地から離れることによる文化断絶の不安を回避するために行われた、村民の村での暮らしの記憶を聞き取り、記録するアートプロジェクト。本展ではそのプロジェクトの紹介を中心に、「ふくしま」「いいたて」から連想されたことばとドローイングも紹介します。

日時／9月23日(土・祝)～ 10月29日(日)　10時～18時（入館は30分前まで）
会場／藁工ミュージアム（高知市南金田 28 アートゾーン藁工倉庫）
休館日／火曜日　HP／http://warakoh-museum.com/
料金／無料　問合せ／088-879-6800

SHIMANTO ART CULTURE GUILDs 地域の映画を作ろう！

主催／Ocean Peace Film おーしゃんぴーすふぃるむ

日本最後の清流、四万十川の流れる四万十を舞台にした地域映画の製作を行います。戦時中に満州開拓団として中国へ渡った人達の体験を語り継ぎ、つないできた暮らしの風景をストーリーとして映画に紡いでいきます。映画製作のノウハウを学ぶワークショップを開催。芸術祭期間内に撮影、編集を行い12月に上映会を行います。

日時／映画作りワークショップ・9月24日(日)　13時～17時　上映会・12月17日(日)　13時～上映後トークショウ
会場／歴史民族文化の里　檮谷せせらぎ交流館（四万十市西土佐江川2940）
料金／ワークショップ：無料　上映会入場料：500円(高校生以下無料)
HP／facebook『SHIMANTO ART CULTURE GUILDs 地域の映画を作ろう！」
問合せ／080-7012-4003(村井)

八畝 AUTUMN FESTA 2017 ―秋は棚田劇場でアートだ―

主催／八畝 Autumn Festa 2017 実行委員会　共催／大豊ジャクヤクの会・高知大学学生ボランティア団体MB

国内有数の棚田撮影スポットとして知られる大豊町八畝。その名高い段々の傾斜を借景に野外演劇を上演します。今回は「利賀演劇人コンクール2016」で選抜賞を受賞した出演者らによる『玄朴と長英』等を上演。また地キビの収穫体験や「地きび挽き・八畝」の試飲、そして地元の食材を使ったジビエ料理も一緒に、秋の八畝をご堪能ください。

日時／9月30日(土)～10月1日(日)　両日とも
受付・オープニングセレモニー　10時30分～
●上演Ⅰ『カチカチ山』　11時～
（原作／太宰治・演出／菊池良太・出演／劇団ＢＬＡＣ(尼崎市)）
●昼食会　12時～
●収穫体験　14時30分～
地元食材と「地きび挽き・八畝」で食事のあと収穫体験を行います。
動きやすい格好・帽子・タオル・軍手等をご持参のうえ、お気軽にご参加ください。
●棚田トーク　18時～
●上演Ⅱ『玄朴と長英』　18時30分～
作／真山青果・演出／西村和泉・出演／おさらい会(高知市)

会場／大豊町八畝地区　大谷様前棚田
（雨天の場合：八畝集会所）（長岡郡大豊町八畝458）
料金／大人3,000円・中高大生1,500円
小学生500円・未就学児無料
※食事・交通費・保険・観劇代を含む。（観劇のみの場合も同額）
HP／https://www.otoyopeony.com/
問合せ／080-6395-0132(山田)

往復送迎バスの運行
●往路バス（集合8:45）　9:00 高知駅 発～10:30 八畝 着
●復路バス　19:30 八畝 発～21:00 高知駅 着（若干の遅延も有）
※自家用車での来場については、駐車場所に限りがありますので、必ず事前にご連絡ください。

ねこ石アート展「見て・触れて・作って楽しむ

主催／中土佐町地域おこし協力隊（矢井賀地区）

高知県中土佐町の海辺の町、矢井賀（やいか）で、ねこ石アート展を開催します。海辺でとれた、あまるい石に描かれた『ねこ石』作品の展示と、石にねこの絵を描くワークショップを行います。眺めのいい矢井賀小学校の図書室に、地元住民が揃った、個性的で表情豊かな100匹の『ねこ石』が日向ぼっこをしてお迎えします。

日時／10月1日(日)～11月26日(日)　10時～16時　※期間中　土日祝日のみ開催
会場／矢井賀小学校2階図書室(高岡郡中土佐町矢井賀甲435)
料金／無料(ただし、ワークショップは参加費500円)
HP／facebook『ねこ石アート展』
問合せ／0889-59-1307(北野)

打楽器の祭典Vol.2

主催／立川書所保存会

『歴史×音楽×地域の融合』をコンセプトに、地域にある文化財の活用と芸術・文化を通した地域振興を目的として旧立川書所書院を舞台としたコンサートを今年も企画しました。
今回は和太鼓奏者の佐藤秀嗣氏をお呼びし、迫力ある演奏と演奏体験のワークショップを通して和楽器の魅力を伝える観客参加型の演奏会を開催します。

日時／10月14日(土)　17時～18時　料金／無料
会場／旧立川書所書院（長岡郡大豊町立川下名28-1）　問合せ／0887-72-0450(前田)

中岡慎太郎顕彰短歌大会

主催／特定非営利活動法人中岡慎太郎先生顕彰会

中岡慎太郎没後150周年、大政奉還150周年を記念して、慎太郎の妻、寿が詠んだ歌を基に、150年前に日本の未来を思い馳れていった多くの有為な者達を思い、短歌という形でこの人達を顕彰するものです。短歌大会当日は、中岡慎太郎館2階において、表彰式と短歌の（入選・入賞者）歌詠と講評を行います。又、生家にて、入賞者の作品（毛筆）展示と小学生による毛筆展示も合わせて行います。

日時／短歌応募期間・4月1日(土)～6月30日(金)
短歌大会・10月29日(日)　13時30分～15時30分
会場／中岡慎太郎館2階（安芸郡北川村柏木140）
料金／短歌応募者：無料
応募者以外：大人（高校生以上）500円　団体（20名以上）400円、小・中学生300円　団体（20名以上）200円
問合せ／0887-38-2413(内藤)

鵜来島ボウル研究所

主催／うぐるBOX

鵜来島は実質人口約２０人の限界集落離島。このままでは無人島になりゆく島の未来を考え、伝統芸能や文化などを記録しワークショップや作品として発表します。参加作家は竹内忠昭（写真家）、小倉りさ（映像作家）、前田裕示（土佐料理人）。写真や映像の展示の他に、島の食材を使った創作料理発表会なども行います。

日時／①展示・11月3日(金・祝)～13日(月)　11時～16時
②鵜来島ボウル研究所アーティストトーク・11日4日(土)　15時～16時
③展示・11月16日(木)～11月21日(火)　8時～16時
④鵜来島料理研究発表会・11月21日(火)　16時～
※展示作品制作期間は、9月29日～11月2日まで。

会場／①②ラフディップ
③旧鵜来島小中学校
④うぐるBOX
料金／①②③：無料
④参加費：5,000円（食材費、饗応費込み）
HP／「鵜来島ボウル研究所2017」で検索
問合せ／080-4410-2441(西内)

いろいろいろを楽しむ演劇

～1年目「楽しむ」を学ぶ語る試す（セミナー、ワークショップ）

主催／シアターTACOGURA（しあたーたこぐら）

ソーシャルインクルージョン（社会包摂）～流行りの言葉。でも、そもそもパフォーミングアーツって、生身が必要、大勢でつくる、時間がかかる・・・ちょっとめんどくさい、でもとても楽しいモノ。いろいろな存在を楽しみながらアーツしたい。みなさんと学びたい語りたい企画です（最終的に演劇作品をつくりたいと考える３年計画の１年目です）。

日時／11月4日(土)　セミナー
①上映会　18時30分～20時
（ドキュメンタリー映画「じゆう劇場の舞台」山崎哲一郎監督）
②多田淳之介氏講演　20時10分～21時30分
「多様な人と多様な形で(仮)」
③意見交換会　21時40分～22時30分　「いろいろいろを語る」
11月5日(日)　ワークショップ見学
講師：多田淳之介氏　10時30分～12時30分（意見交換会含む）

会場／セミナー会場・多目的ホール『蛸蔵』
（高知市南金田 28 アートゾーン藁工倉庫）
ワークショップ見学会場＝一般社団法人Uプロジェクト
（高知市杉井流 16-5 アルクビル 4FA）
料金／セミナー参加費：1,000円
（11月4日意見交換会費別途）
ワークショップ見学：無料　※見学定員10名
HP／http://theater-tacogura.wix.com/kochi
問合せ／090-2897-7033(サカシタ)

高野農村歌舞伎

主催／高野農村歌舞伎保存会（たかののうそんかぶきほぞんかい）

津野町高野地区で４年に１度開催する農村歌舞伎は、藩政時代から受け継がれており、役者、裏方は全て高野地区民で、津野町の重要な伝統文化として位置づけられています。特に今年は、幕末維新博も開催されていることもあり、本町出身の勤王の志士吉村虎太郎を題材にしたオリジナル歌舞伎「虎太郎魁大和錦」も上演します。

日時／11月11日(土)　17時30分～21時
会場／「高野の舞台」（高岡郡津野町高野）（国指定重要有形民俗文化財）
料金／無料
問合せ／090-1008-4952(熊田)

書道家 石井誠「生」展

主催／星ヶ岡アートヴィレッヂ（ほしがおかアートヴィレッヂ）

第７回手島右卿賞を受賞し、32歳の若さで亡くなった書道家・石井誠。右卿の故郷・高知で受賞作「生は生たりえるか」を含む初期から晩年までの作品を展示します。また、ギャラリートークも開催。作品解説や制作秘話を通して書の魅力を発信し、未来を担う若い世代、地域の方々、会場者と共に考え交流できる場を創造します。

日時／11月12日(日)～11月23日(木・祝)　10時～18時
ギャラリートーク・11月12日(日)　13時～(約1時間)
石井誠のパートナー井川朋子さんによる作品解説を行います。
※駐車スペースに限りがありますのでご注意ください。

会場／星ヶ岡アートヴィレッヂ（高知市横内153-1）
料金／無料
HP／http://hoshigaoka-art.at.webry.info/
問合せ／088-843-8572(星ヶ岡)

二人芝居『絵金縦遊伝（えきんしょうゆうでん） ～漁り火の向こう～』

―幕末土佐を生き抜いた孤高・異端の絵師「絵金」と妻初菊の物語り―

主催／宵晴レ座（よいばれざ）

幕末土佐が生んだ異端の絵師・絵金と、妻・初菊の半生を描いた二人芝居。初菊に焦点をあてた物語は初の試み。歌回の東京公演を経て、ついに高知初登場です！音楽陣にギターと三味線・唄・語りの生演奏を配し、天才絵師の苦悩と妻との愛憎劇がダイナミックに展開します。お待だけではない、絵師が見た幕末を感じてください！

日時／11月25日(土)・26日(日)
25日(昼)　13時30分～15時30分
25日(夜)　18時30分～20時30分
26日(昼)　14時30分～16時30分
※全公演、開場は開演の30分前です。
※整理券は開演2時間前から発券いたします。

会場／井天座（香南市赤岡町795）
料金／前売・ご予約：3,000円　当日：3,500円
※中学生以下半額　※全席自由
HP／http://www.yoibarezaekin.com/
問合せ／090-9382-3726(ウズ)

※芸術祭チラシ兼ポスター作成時の内容となっています。

★実施報告★

※原則として、事業終了後に提出された実施報告書をもとにしています。

古民家Art ＆ Live

入場者数：2000人

事業の内容

古民家・町並みと、Artや音楽のコラボレーションイベント

古民家・町並みとArtのコラボとして、現代アート作家：都築房子氏の個展を町内に残る古民家4ヶ所にて開催。各会場だけでなく、その道すがら多くの登録有形文化財が残る町並みを散策し楽しんでもらった。

古民家と音楽のコラボとして、歴史の息吹きを感じられる濱田邸にてGentleによるクラシックギターと二胡の演奏が古民家の空気を響かせ、時空を超越したLiveとなった。

成果・反響

- 今まで奈半利に来た事もなかった人が、奈半利町の古民家・町並みにふれてくださるキッカケとなった。
- 奈半利町民でもゆっくり町並みの散策やそれぞれの古民家に入る機会はあまりなかったが、この機会に楽しむ事ができた。町民にとっては日常にある風景だったが、今回のイベントを通じてその存在を改めて感じる事ができた。
- Artや音楽ファンが古民家の魅力を感じ、古民家ファンがArtや音楽を楽しめる機会となった。
- 中芸地域の歴史は日本遺産に認定されたが、このイベントを通じてその歴史を感じ想像する機会になった。もっと地域を知りたくなったと云う声もあり、地域の歴史・文化の入口にもなった。

助成を受けたことによってできたこと

今回はArt＆Liveと云う事で、幅を広げた催しを実施する事ができた。古民家の可能性を更に感じる事ができた。

今後に向けて

次回の開催を期待する声も多くあり、今後も古民家・町並みを活かした様々なイベント、アートイベントを実施していこうと考える。

（助成額：35万円）

WARAKOH think and feel 東北vol.3 × A→Z（アートゾーン）で考える 暮らしの記憶、繋がる思い、紡がれていくことばたち

入場者数：展示327人（内、くじびきドローイング参加者80人）・トークイベント32人

第67回 高知県芸術祭事業実施報告書

事業の内容

「南海トラフ大地震」「過疎高齢化や核家族化などによる文化の断裂」という地域の課題を考え、また、身の回りの暮らしの中にある文化に気づきをもたらすことを試みた展覧会とトークイベント。展覧会では、東日本大震災に起因する東京電力福島第一原子力発電所事故により全村避難になった福島県飯舘村で行われた「飯舘村の記憶と記録プロジェクト」での写真家・岩根愛さんによる作品を中心に、震災をきっかけに福島県内で起きたコミュニティの崩壊や文化断絶の危機、地域間の課題の差違による分断を回避する為行われた「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」を紹介。また、飯舘村やそこで起きたことを遺し伝えていく「いいたてミュージアム」を観た人々が残した言葉を絵にしてリレーしていく「くじびきドローイング」も紹介した。トークイベントでは、「地域とアート」「地域とミュージアム」を考える機会をつくった。

成果・反響

展覧会の感想≪アンケートより一部抜粋≫

- 福島の写真がすばらしかった。原発はいけないことだ。
- 普段生活している中ですぐに忘れそうになる大切なことを示してくれました。
- H24～H25にかけて福島県の飯舘村で働く機会がありました。当時道行く人を見つけるだけでも苦労した状態でしたが、着実に復興の道を遂げていることを知り、うれしく思いました。

イベントの感想など≪アンケートより一部抜粋≫

- 地域におけるミュージアム、あらためて考えました。勉強になりました！
- このようなシンポジウムからさらに深めていけるプラットフォームがあればいいですね。

助成を受けたことによってできたこと

規模を縮小することなく展覧会が開催でき、来場者とのやりとりやアンケートなどから、暮らしが拠って立つ地域やそこにある文化について、考え、気づきをもたらすことが、微力ではあるができたと感じている。また、鑑賞者が自由に「くじびきドローイング」に参加できる場を設けられ、より能動的な鑑賞を来場者の約4割に促せたと考える。トークイベントでは展覧会で紹介した「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」や「くじびきドローイング」を行っている方々を県外から呼ぶことができた。ミュージアム関係者やアーティスト、福祉関係者、教育関係者、地域住民など、県内外分野を問わず様々な方が活発に意見交換する交流の場をつくることができたと思う。

今後に向けて

トークイベントの記録をウェブ上で公開する予定である。このトークはシリーズ化して今後もやっていきたい。美術だけではなく多様な分野と混ざりながら、当館の「地域における役割や使命、関

係性や可能性を考え続け、アートの視点で地域の課題に取り組み、社会へ問いかけていくことを、展覧会に限らず様々な切り口で今後も継続的に行っていきたいと思っている。

（助成額：35万円）

SHIMANTO ART CULTURE GUILDs 地域の映画を作ろう！

入場者数：ワークショップ31人・安藤桃子氏講演会25人・上映会65人

事業の内容

地域住民と共に映画の製作及び上映会を行う。9/24短編作りワークショップ、10/17安藤桃子氏講演会、12/17上映会

成果・反響

9/24短編作りワークショップ

OCEAN PEACE FILM の村井と志和が講師となり、短編ワークショップを開催。参加者31人と二班に分かれてシナリオを元に、役者、カメラマン、監督の役に分かれ、撮影、編集、上映を行いました。参加者は文字のシナリオをどこで演じてもらうか、どんな演技をするか、どんな構図でとるか、初めてのことでしたが、講師の補助のもと、撮影、編集し映画となった時には皆、感慨深く見ていました。映画を見るだけではない、作る楽しさを感じてもらえたと思います。

10/17安藤桃子講演会『映画の可能性』

安藤桃子監督をお招きし「映画の可能性」という題で講演会を行いました。

企画者である村井との対談という形式で安藤監督の映画監督になるまでの道のりから映画「０、５ミリ」を撮影した経緯や体験、そして昨年高知市内にオープンしました「KinemaM」への思いを語っていただきました。

来場者アンケートでは、安藤監督の語りが興味深かったという意見の他に「映画の本質について学べました、地域、高知の面白さを再確認できた」等、映画への興味関心の高まりと、高知という地域へのまなざしが感じられました。

12/1～10映画製作、12/17上映

12月始めより映画撮影を開始し、10日にクランクアップ、17日に上映会を実施しました。映画製作にあたり、役者、スタッフ、協力を含め45人、10の団体、場所に協力をいただき、企画の趣旨にある地域で映画を作るということが達成できたと思います。

それに加え、役者やスタッフとして参加してくれた方々は、本格的な映画作りの場に関わり、映画に対する技術や知識を得て、さらなる映画への関心につながると思われます。そしてただ見るだけの映画から、作れるという実感を持つということが内発的アート実践の道だと思います。

上映会当日は、50人を超える人々が見てくださいました。映画の中にはドキュメンタリーとして満州開拓の体験談がありますが、それを見て、地域の歴史を再発見したり、初めて知ったという方もおられました。「今まで知らなかった話がこの映画を通して身近になったような、中国残留孤児や外国の人、同じ日本人でも自分と離れた存在の人に興味が出てくるような気持ちになりました。」と言った感想がありました。映画製作ではなく、映画を見たという形で参加された方々の受け止め方は様々でしたが、自分の身内の満州に関係した人のことや、自分のルーツについて考える人がおり、それが地域の歴史を語り継いでいくことにつながっていくのだと思いました。

助成を受けたことによってできたこと

第一に今回の企画自体が、助成金無しでは難しかったことが挙げられます。映画製作というのは多くの人手が必要となります。撮影期間が10日となれば、その間の宿泊費、食費、人件費がかかります。今回は地域の

人々の協力により大幅な経費削減が出来ました。

第二には高知県芸術祭という一つの枠の中に組み込んでいただいたおかげで、対外的な交渉の際に信頼性を担保できたことがあります。

地域の人や民間、公的な機関に話しする際にはとても役に立ちました。

今後に向けて

芸術祭での上映は終わりましたが、色々な人々から、上映を希望する声があり、今後も上映する機会を作っていきたいと思います。それと同時にこの映画を見て、感じたことから行動のきっかけになるような、活動もしていけたらと考えています。また体験者の証言の記録活動などもできたらと思っております。

また、映画製作を行うメンバーができたことで、SHIMANTO ART CULTURE GUILDs と名前をつけたとおり、地域の人々がアーティストになって、芸術活動の輪が広がっていく活動も同時に続けていきたいと思っております。今回は映画という題材でしたが、また絵画や音楽、演劇など、地域の人々が主体となってできる芸術活動の場作りを行っていきたいと思っております。

（助成額：35万円）

八畝 AUTUMN FESTA 2017 ―秋は棚田でアートだ―

入場者数：地域以外からの来場者数・1日目20人、2日目19人

舞台作品への観劇者数・1日目『カチカチ山』24人、『玄朴と長英』46人

2日目『カチカチ山』35人、『玄朴と長英』28人

事業の内容

1．シャトルバスの運行　2．地キビ収穫体験

3．八畝棚田劇場

上演Ⅰ『カチカチ山』BLAC / 劇団 身体言語（尼崎市）

上演Ⅱ『玄朴と長英』おさらい会（高知市）

4．地域の食材を味わう交流会　5．棚田トーク

成果・反響

≪高知新聞・SNSより抜粋≫

- 初めて参加した香美市のI.Mさん（53）は「人が温かく、以前に会ったことがあるような安心感が湧いた。地域に参画できた気になった。」と再訪を誓っていた。実行委員会メンバーで住民のO.Sさん（72）は「昨秋から少しずつ住民の参加も増えてきた。」と話し、「準備は大変だけど、地区のみんなが寄り合って楽しめた。」と喜んでいた。
- 町外の参加者も同じ思いだったかもしれない。イベントを通して山の暮らしを知り、それが水を大切にする気持ちを育む。八畝のアートは新しい視点を与えてくれる。

●ランチタイム、しか肉などの郷土料理とNHKによるサプライズのお天気教室！発見は銀不老のおにぎりと大豊きゅうり♪地キビ焼酎と一緒に堪能しました。二本目の劇は以前リーディング劇で見た「玄朴と長英」のパワーアップした完全版！食事、焼酎、景色、音楽、劇と一日中、八畝を堪能しました♪

助成を受けたことによってできたこと

二年目であるとはいえ、まだまだ知名度は低く、また高知市からも遠く離れた遠隔地であるため、観客動員が非常に困難である。助成を受けたことによって、舞台や照明機材等を野外に設えるだけの資金を得ることができた。また、舞台芸術を鑑賞する機会のない地域の皆さんにとって、秋の地域の楽しみとして認識してにらえるようになった。こうした機会がコミュニティづくりのきっかけとなり、地域内外の人々の交流の場となることができた。昨年は一日だけの事業だったが、今年は二日行うとともに、県外の演劇団体も招聘して開催することができた。

今後に向けて

イベントを開催することがそのまま地域の活性化につながるとは考えていない。様々な立場の者が自分のできることを受け持って活動するところに、コミュニケーションが生まれ信頼関係が育まれる。とはいえ、こうしたイベントは日々の活動の集大成の場であることは間違いない。今後も八畝のために、地道な活動に合わせて、多くの人々が集う場を設けていくことを考えている。

（助成額：35万円）

ねこ石アート展「見て・触れて・作って楽しむ　猫の石」

入場者数：134人

事業の内容

休校中の学校の図書館を利用し、海岸で拾った丸い石にアクリル絵の具でネコの絵を描くワークショップと、地元住民が描いた、猫石100作品の展示を行った。

成果・反響

参加者、来場者は少なかったものの、来ていただいた方は、ゆっくりした時間を過ごせた、とても楽しかった、じっくり見れて良かった、こんなに石に絵を描くことを楽しんでいる人がいることに驚いた、などの意見をアンケートに答えていただき、楽しんでいただけたようだった。

石に絵を描くときの画材がアクリルガナッシュとしって、自宅でもやってみるという方や、庭に絵を描いた石を置きたいから習いに来たという方もいらっしゃり、石に絵を描くことに興味を持っていただけた。子どもの来場も少なかったが、子ども達は一人で2、3個描いて、夢中になってもっと描きたいという声もあった。猫が好きで訪れた方たちは、猫の写真の展示ももっと見たいという意見があった。地元の高齢者が何度も足を運んでくれたり、普段交流のない方も訪れてくれた。

助成を受けたことによってできたこと

使われていなかった小学校の図書スペースは、電気も暗く殺風景でしたが、今回の助成をいただけたことで、温かみのある灯りを設置し、全体が明るくなり、布などを使用して、作品がより楽しく見えるように装飾することができました。また、これまで、筆やバケツが全員分なかったり、アクリルガナッシュも限られた色のみだったので色彩が単調になりがちでしたが、今回、画材や道具をそろえることができて、新しい色使いに挑戦できるようになり、金色の猫や、黒銀色の猫を描いたりと、作品の彩が豊かになりました。筆の太さを変えるなど、表現の幅も広がりました。

今後に向けて

来年度も引き続き開催できるよう、今後も月一回地元でのワークショップを続け、次回は更に多くの猫石を展示したいと思います。また、同じ矢井賀地区内にあるライダーズイン中土佐（簡易宿泊施設）の管理者の方から、ぜひ、ねこ石を宿泊施設に飾りたいとの要望があり、今後のワークショップで作った作品を宿泊施設にも寄付する予定です。猫の石をきっかけに、海岸や、町の景色にあらためて注目していただき、町全体を楽しんでもらえる活動に繋げていきたいと思います。

（助成額：14万円）

打楽器の祭典Vol.2

入場者数：81人

事業の内容

国の重要文化財である旧立川番所書院を舞台として、奏者にTAIKO-LABと市川心之輔を招き和太鼓とドラムをコラボさせた音楽イベントを実施した。当日の天候は雨が予想されたため、当初の計画であった野外を屋内に変更し実施した。

成果・反響

≪アンケートより一部抜粋≫

感想・意見

●パワーをもらいました。とっても良かったです。
●重文活用で地域活性化。良かった。
●迫力がありよかった。次のイベントにも参加したいと思った。
●和室で和太鼓、よくマッチしていた。室内での演奏会大変良かった。演奏時間もちょうど良い。

今後、鑑賞・観覧したいジャンル・作品など

●ジャズ
●ヴァイオリンがききたい。
●歌なども良いですね、お芝居とかも。

●文楽や狂言など伝統芸能なども、立川御殿にふさわしい芸能だと思います。旅行会社とタイアップし、ツアーを組むなど、未来はこんぴら歌舞伎のようになればと期待しています。会費を取るだけの出演者を呼べるような会場ですので、もっともっといろいろな催事を実施してほしいと思います。又、学生（小・中）の社会教育活動として高知県の小中学校を集め、打楽器を学び演奏する会として実施してほしい。

助成を受けたことによってできたこと

出演者の確保をもとより、舞台や照明など設備の充実が図れるなど、当助成金を活用することにより魅力あるイベントを行うことができた。

今後に向けて

立川番所を舞台とした打楽器の祭典は、「志国高知　幕末維新博」に併せてＨ３０年度も行うこととしている。今回の反省点や課題を改善し、多くの方々に音楽の魅力や旧立川番所書院の素晴らしさを発信していくイベントにしていきたい。また、こうした取り組みが過疎・高齢化するこの地域の活性化に繋がるよう、保存会としての役割を果たしていきたい。

（助成額：35万円）

第一回中岡慎太郎顕彰短歌大会

入場者数：表彰式27名（内スタッフ8名・慎太郎館職員1名）
短歌応募者228（内一般応募者数112名・高校生以下116名）

事業の内容

短歌応募期間：29年4月1日～6月30日
題：志、別れ、愛、家族、自由題として全国へ公募
短歌の会700ヶ所以上、九州、山口へ行き宣伝チラシ配布、地元中芸5ヶ町村の小中学校を中心に高校生以下の公募も行う。7月より選者の先生方による歌選、9月下旬に入選、入賞者の発表　短歌応募者全員の作品集冊子作りを行い、10月29日に中岡慎太郎館2階において短歌大会を開催、短歌大会では入選入賞者の表彰、及び歌評、講評を行う。生家において入賞作品を毛筆にて書道先生及び小学生に書いてもらい展示する。

成果・反響

アンケートの結果としては、ほとんどの方が続けてほしいという希望でした。賞品としてご当地の物がもらえて嬉しかったなど北川村の物産のPRにはなった。又、男性の選者も必要、子供達の歌が良かった、短歌大会に来れなくて残念、入賞したいと切に思ったなど、寄せられています。短歌大会に千葉県から来られたら方と交流が出来て良かったなどです。全国公募は第一回目ということで短歌の投稿者が少なかったが、ある程度は慎太郎や妻兼さんについて知って頂けたかなと考えております。また、小中学生に参加賞を贈りましたが、喜ばれ来年も是非短歌を作りたいなど、次代の若い人達に良い機会を与えることになりました。

第67回 高知県芸術祭事業実施報告書

助成を受けたことによってできたこと

一般の短歌投稿応募者数が少なかったことで、事業が大幅な赤字になるところでしたが、助成を受けられたことで大幅な赤字になることは防げた。高校生以下の応募者（小・中学生）に参加賞を贈れたこと。ある中学校は国語の授業で短歌を取り上げてくれていた事が良かったと思いました。

今後に向けて

入選・入賞者の副賞は北川村の産物（特にユズ製品）のPRになるし、参加者の動機の一つにもなっているので賞品はずせず、かなり出費になること、今後続けるには資金面及び人材の面をクリアしないと続けられない状態です。この二つの条件をクリアする為何かの方法を模索していく。

（助成額：30万円）

鵜来島ボウル研究所2017

入場者数：約200人

事業の内容

参加作家による作品の展示と料理研究発表会による食事会と交流会

成果・反響

鵜来島をより多くの人に興味関心を持ってくれた。写真展示ではA0サイズなど大判プリントを多数展示し迫力のある展示ができた。島の綺麗な風景だけではなく島の現状や内情を写す事ができた。映像展示では祭りの様子をメインに関わる人々の声や想いを撮ることが出来た。料理研究発表会では近海の珍しい魚料理をプロの手によって調理し学ぶことが出来た。反響としては、鵜来島という存在をほとんど知らなかった人たちが、聞いたことがある、テレビやなんかで見たことがある、などの声を聴くようになった。

助成を受けたことによってできたこと

プロのデザイナーにお願いしたことでより効果の高いポスターやチラシが作成できた。プロの写真家や映像作家、料理人に遠方からお願いすることが出来た。

今後に向けて

鵜来島の活性化を図りより多くの人に関心を持ってもらい島に足を運んでくれるような活動を続けていきたい。写真や映像などは鵜来島地区に寄贈、今後鵜来島旧小中学校に常時展示予定。映像は再編集してユーチューブなどにて配信予定。

（助成額：35万円）

いろいろいろを楽しむ演劇～1年目「楽しむ」を学ぶ語る試す（セミナー・ワークショップ）

入場者数：上映会＆セミナー48人・意見交換会28人・ワークショップ11人

事業の内容

【11/4（土）18:30～22:30】

① 障がい者と作る演劇。ドキュメンタリー映画「じゆう演劇の瞬き」（中島諒人氏演出）（演出家、鳥の劇場芸術監督）

② 多田淳之介氏（演出家、東京デスロック主宰、富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督）、上田祐嗣氏（アートセンター画楽代表）、松本志帆子氏（藁工ミュージアム学芸員）、藤岡武洋（シアターTACOGURA演出家）トークイベント。中島諒人氏動画配信での参加。

③ （第二部）意見交換会。

【11/5（日）10:30～12:30】

④ 多田氏によるUプロジェクトに通う子どもたちとのワークショップ開催とサポートスタッフとしての参加、見学。

成果・反響

何より一歩を踏み出せたこと。さまざまな属性の方と関係性を持てたこと。

≪アンケートより一部抜粋≫

- 「いろいろいろ」って何だろうと思って参加しました。興味深く拝聴しました。時間をかけつつ、期限を設けて取り組むというのはとてもいいと思います。楽しみにしています。（50代、男性）
- 障がいのある方の“表現”にはどんな方法があるのかなと考えているところです。表現、表に現すことが苦手な方や、積極的に出したい方、いろいろな方がいらっしゃる中、「演劇」がどのような力をもっているか、とても関心がありました。関係する方の思いを聞くことができてよかったです。たくさんの方に知ってもらい参加してもらえるよう、中央公園などのイベントなどもできたら、一般の方にも知ってもらいたいと思います。（女性）
- （映画について）とても興味深い現場でした。（トークイベントについて）保存版！の内容でした。画楽さんの活動にも興味がわきました。（無記名）

助成を受けたことによってできたこと

① 講師招聘による学習全般（事前サーチ、セミナー、WS、振り返り）

② 視察による学習全般（１完成形のイメージ、困難、覚悟および収穫、意義）

③ 手話通訳者の配置（アクセシビリティの意識、関係の拡がり）

今後に向けて

３年計画の２年目として、年間継続的に活動を行う。以下、予定。

■12/17 「ブレーメンの音楽隊」障がい児童招待公演。■1/21 アートセンター画楽WS見学。■1/30 「いろいろいろを楽しむ演劇」トークカフェ。■8/20 「わらこう夏祭り2018

作業所からの出店。■9/23、24アートセンター画楽「アートキャンプ」参加。■11月 中島諒人演出「じゆう劇場」招聘公演。●年間通して、WSにトライし、経験を深めていく。関係団体と意見交換、学習を深めていく。

（助成額：33万8千185円）

高野農村歌舞伎公演

入場者数：500人

事業の内容

４年ぶりに開催された農村歌舞伎は、役者や裏方など、そのほとんどが地区民で構成され、高野地区（70戸）の一大行事として取り組まれた。特に今回は「復活40年記念」と銘打って、普段より一演目多く、「浄瑠璃式三番叟」「虎太郎魁大和錦」「神霊矢口渡」「義経千本桜」の4演目を上演した。

成果・反響

- 観客席が野外（神社境内）ということもあり、当日は寒かったものの、良い天気に恵まれ県内外から約500人ほどの観客で、早くから場所取りが見られるなど、会場は熱気に包まれ、大きな成果を得ることができた。
- 今回は復活40年記念と銘打ち、普段より演目が多い、４演目を上演したが、役者や裏方などそのほとんどが素人の高野地区民で、ユーモアを交えたセリフに、笑いあり、歓声やおひねりが飛び交う中、迫真の演技に観客は魅了された様子であった。
- 特に、天忠組総裁吉村虎太郎を題材にしたオリジナル歌舞伎「虎太郎魁大和錦」では、虎太郎が敵兵に銃撃され、故郷を回想しながら倒れる最期のシーンでは、その演技に観客はくぎ付けになるほど感動を与え、中には涙する人もいたほどであった。

≪観客の声より一部抜粋≫

- 素人じゃないみたいで完成度が高い。役者さんの努力が見えて感動しました。
- 地域の方々が一致団結して運営している様子が素晴らしい。

助成を受けたことによってできたこと

毎回資金面で苦労しているが、今回の助成を受けたことによって、指導者謝金、音響、照明、暖房用燃料などで活用することが出来た。

今後に向けて

次回は4年後になるが、高野地区全体の行事であることから、他のさまざまな地区行事を通して地区民のきずなを深めながら、今後に向けて取り組んでいきたい。また、後継者育成にも力を入れたい。

（助成額：35万円）

書道家 石井 誠「生」展

入場者数：1136人

事業の内容

＊手島右卿（安芸市生まれ）賞を受賞した作品「生は生たりえるか」（1.5m×8m）を含む8点と、「花」作品70枚を展示

＊展示会初日11/12（日）会場にてギャラリートーク＆高知学芸高校書道部の皆さんによる「席上揮毫」開催

＊高知西高校美術部の皆さん、来場者に「花」をテーマに作品を作っていただき石井作品とコラボさせる参加型コーナーを設置

＊ＮＨＫハートネットＴＶ「ブレイクスルー」・学芸高校書道部、西高校美術部の練習風景を記録したビデオの上映

＊来場者に感想などを自由に書いていただけるようにコメントノートを設置

成果・反響

≪コメント帳に記入いただいた感想から一部抜粋≫

●初めて書道展に来ました。書のことは何もわかりませんが石井さんの作品に出合って生きることをもう一度考えるきっかけをいただきました。

●病と闘いながら制作、胸を打たれました。書を見る。病を見る。人それぞれだけれど、その全てが石井誠さんだと感じました。

●学生が参加されていたのが素晴らしかったと思いました。若い方に負けないように生きなければと思いました。

●「花」プロジェクトに家族で参加させていただきました。生きることについて子どもと会話する良い機会になったと思います。

助成を受けたことによってできたこと

●手島右卿賞受賞作品が1.5m×8mもの大作であるため展示する機会が少なかったが、広い壁面を持つ会場で受賞作を含む大作を中心に思い切った展示ができた。

●石井誠さんの関係者が県外在住のため、助成金をいただけたおかげで高知へ足を運び、直接会場を確かめたり、展示会のイメージ作りも共に出来た。

●準備段階から石井さん側とギャラリー、地域の協力者、学校関係者がそれぞれの立場や経験を生かして意見交換をした。その中から、来場者参加型の「花」プロジェクトや、地域の高校生にも参加いただくアイディアが生まれ、地域の方と連携を持ち、密着した展覧会を共に作り上げていくことが出来た。

●搬入、搬出、広報作業、イベント当日もアルバイトをお願いできた。ボランティアの方や地域の協力者、イベントに参加くださった学校関係者と連携して活動してくれた。
大きな作品の展示、撤去も事故などなく、スムースに予定していた時間内で仕上がった。

●助成をいただけて二つ折りの案内状パンフレットの制作ができ、横長の手島右卿賞受賞作品が大きく掲載できた。

●案内状の制作部数を増やせたので地域の学校や町内会、近隣の施設にも十分配布できた。協力してくださる方には積極的に広報をお願いし、ギャラリー関係者や知人、友人はもちろん、あまり書道や美術の展覧会に関心のない方など、様々な方に足を運んでいただけるように案内状の配布に努めた。展覧会が始まってからも、来場者が友達に知らせたり、趣味の教室に置かせてもらう。などといって複数部数持ち帰ってくれた。

●高知学芸高校書道部さんにオープニングイベントへの参加をお願いし、助成金を練習用の紙代など必要経費に充てた。
会場いっぱいに広げた大きな紙へ一発で書き上げるパフォーマンスは来場者から大変反響があり、次世代の若者たちとの交流も出来た有意義なイベントとなった。

今後に向けて

書道家 石井誠「生」展を開催して、書道をされている若い世代（20代～40代）や学校書道クラブの方が多く会場に足を運んでくださった。また一方では、普段は全く書道に馴染みがなく「書道展へは初めて来た」という来場者の声も多く聞かれた。
かつては書道大国と呼ばれ手島右卿も輩出した高知県。書という伝統文化が活き活きと根付く地域であり続けるために、今後も様々な角度から粘り強く丁寧に、繰り返しアピールを続けることが大切だと痛感した。
東京、大阪、神戸、山口、四国など県外からの来場者もあり、何度も見に来てくださる方やＳＮＳなどを通して口コミで友達や家族に広報してくださる方が大変多かった点を考えると、一個人の展覧会ではあるが、次世代への地域資源の継承において今後につながる広がりを持てたのではないかと思う。
今回助成をいただいて経験したことを活かし、今後も地域に根差した文化・芸術の発信、若い世代へのアプローチや個展、グループ展開催などを継続的に行っていきたい。

（助成額：35万円）

二人芝居『絵金縦遊伝（えきんしょうゆうでん）～漁り火の向こう～』―幕末土佐を生き抜いた孤高・異端の絵師「絵金」と妻初菊の物語り―

入場者数：342人（11/25（昼）115人、11/25（夜）92人、11/26（昼）135人）

事業の内容

幕末土佐の天才絵師・弘瀬金蔵、通称・絵金の半生を描く演劇公演。高知の絵金ファンはもとより、絵金を

詳しく知らない方にも、演劇というアプローチで絵金とその半生に関心を持って頂こうと、高知（赤岡）公演を企画しました。地域の方々と連携したイベントにするため、地元の有志の皆さんによる幕前劇、古民家「赤れんが商家」でのアート展示も行いました。

成果・反響

高知県内ではメディアにも大きく取り上げられ、反響は大きかったと感じます。来客数は予定より少なくはありましたが、ご来場の皆様から熱気を感じました。アンケートの声は、「感動した」「再演してほしい」「もう一度観たい」「絵金に妻がいたことを知らなかった。半生を知ることができて良かった」「地元の絵師のことを知ることができた」など、高評価が多かったと思います。

また、赤岡町の方からは、「地域と文化と、それを支える人との関わり方を考え直す良いきっかけになった」「地元がもっと力を入れてやっていかなければならない」という声も頂いております。今回は演劇の舞台でしたが、こういった活動が地域文化の活性化に今後繋がっていくという、強い手応えを得ました。

助成を受けたことによってできたこと

東京からの遠征公演でしたので、なんといっても渡航費用、運搬費用が大きなネックとなっておりましたが、助成を頂けたおかげで高知公演を実現することが出来ました。

芝居舞台の場合、キャスト・スタッフ・大道具・照明機材を丸ごと現地に移動させる必要がありますので、その費用負担の割合が非常に大きく、よほどのビッグカンパニーで、ロングランでの上演を行わない限り、遠征は難しいところがあります。私どもは小劇団でありますが、今回、絵金の地元高知で公演ができたことは、非常に意味のあることと感じます。

今後に向けて

今後も、絵金を題材にした芝居公演を続けてまいりますので、舞台表現に更なる磨きをかけられるよう精進いたします。高知でのワークショップ等も行いたいと、地域の関係者に提案中です。また、今回の舞台制作の様子から本番までを追いかけたドキュメンタリー映画（和泉彩雨監督）も作成中です。完成しましたら初上演は高知で行う予定です。

（助成額：35万円）

第67回高知県芸術祭「KOCHI ART PROJECTS 2017」事業報告会

第67回高知県芸術祭
助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2017」
～事業報告会のご案内～

開催日：平成30年１月28日（日）
会　場：高知市立自由民権記念館・視聴覚ホール
参加者：34名（報告者含む）

＜プログラム＞

1. あいさつ　　高知県芸術祭執行委員長　新納朋代
　　芸術祭執行委員のご紹介
2. 助成事業報告（12団体）
3. 意見交換

～議事抄録～

① 古民家Art＆Live

まず弊会の紹介をさせていただきたいと思います。今から19年前に設立をし、奈半利町で活動してます。高知県の東部、室戸の西側にある人口が3300人程の小さな町です。奈半利町には登録有形文化財が37カ所あります。その登録有形文化財を活用したイベントや、ガイド、まちづくり、地域づくりの活動をしております。

『古民家Art&Live』の説明をしたいと思います。会場は5カ所、期間は9月10日から24日まで2週間行いました。内容としては、古民家・町並み、アートやライブ・音楽とのコラボレーションイベントとなっております。アートとしましては、高知県を代表する現代アート作家、都築房子さんの個展を開催いたしました。これが4カ所です。先ほどお伝えしたように、37カ所の登録有形文化財がございますので、その会場と会場の間にそういう町並みがあります。そこも歩いて散策し、町並みを楽しんで頂きながら、各会場で作品を楽しんで頂きました。会場は、藤村製絲、旧野村茂久馬邸、高田屋、なはりの郷です。会場に合わせて趣の違う作品を展示してくださいました。

ライブは、元『いちむじん』で活動されていた方が、今2人組で『gentle』というユニットで活動されていますので、そのお二人にライブをして頂きました。ライブ会場は、濱田邸です。ここは奈半利町の中でも皆さんに見て頂きたい場所の一つです。

良かった点、苦労した点、反省点は、都築さんの個展は、2009年に藤村製絲にて行ったのですが、そのとき本当に多くの方が来られて反響がすごく大きかったので、「これはまたやらないかんな、やりたいな」っていう声はあったものの、なかなかそれが実現できていませんでした。また、『gentle』のお二人からも奈半利の古民家でライブをやりたいというお声を頂いていましたので、何とかしてやりたいなと思っていたところ、こういった企画があるということで、実施させて頂きました。本当にいい機会になったなと思いました。この機会がなかったら、こういうイベントはできなかったと思いますし、参加者の方もなかなか来れなかったと思うので、そういった面でも本当に有り難かったですし、良かったです。

企画準備で苦労した点は、やはり本当にお金がかかるので、いい企画をしても、なかなかできないというところでした。助成を頂かないとできないので、その期間のうちにどういうふうな段取りをしたら良いかと

いうところで、調整が苦労しました。

実施当日の良かった点としては、高知県どこも人口が減ってきている中で、奈半利町も人口が減ってきています。町を歩く人もほとんどおりません。このイベントを通じて、古民家と古民家の会場を町並み散策して頂くことによって、普段、歩いてない人が結構見受けられました。それを見て、昔こんな感じだったなと、昔を思い出したりと活気を感じられ、町全体がにぎやかになったなというふうに感じました。

当日に苦労した点は、駐車場への誘導などが分かりづらかったということでした。

実施体制で良かった点は、各会場の家主さんも協力的で、会場に見に来られた方に作品の案内もして下さいますし、この家は元々どういう所だったなど、そういった話もして下さったので、そういう面でコミュニケーションがとれて良かったなと思います。

実施体制での苦労した点、反省点は、弊会だけでやろうと思ったらできますが、やはり役場との協力体制が必要だなと思いました。多くの方に告知はできますが、住民にも知ってもらいたいので、もっと役場を通じて告知ができたらなというふうに思いました。

その他、気付いた点としましては、県外からも何人か来て頂きましたので、県外にも発信できるツールがあったらいいかなと思いました。

このイベントを通じて奈半利と繋がる人ができたということが大きな成果だと思います。そして、このイベントやることによって、僕の住んでいる、旧野村茂久馬邸に90歳のおばあちゃんが来てくれて、「こんなんやったね。昔はこういうところやった。なかなかこういう機会がないと来れんかったけんど、本当に良かった」と言ってくれましたし、住民も慣れ親しんだ古民家や町並みに普段触れる機会がないので、そういう機会にもなったということは良かったなと思います。

『古民家Art&Live』とういことで、芸術ファンに古民家を知って頂いたり、古民家のファンに芸術を知って頂くという、相乗効果がすごくあったイベントになったなと思いました。

最後になりますが、中芸地域は昨年、日本遺産に認定されました。ただ、認定されたものの、その受皿がなかったので、日本遺産の受皿になったということがすごく良かったなと思います。今後も浦の会として日本遺産を使ったイベントなどをやっていき、今ある資源を大切にして今後も活動をしていきたいと思います。

□質疑応答

Q：広告宣伝は具体的にどういうことをされたのでしょうか。

A：奈半利町を含む5町村に折り込みを全部入れました。あとは、都築さんのご関係の方にダイレクトメールを送ったりしました。ただ、やはり範囲が狭かったと思っています。もっと多くの方に知っていただくように努力をしていかなくてはいけないなと今回感じました。

□意　　見

●二人組や三人組の奥様方が、随分たくさん歩いてお昼を間違いなく奈半利で食べていました。お弁当を500円、600円食べるとコーヒー代も落ちますし、且つ、お土産代も落ちていきます。だから逆に言うと、アートを仕掛けるだけではなくて、地域にお金が落ちるような仕掛けを組むということですね。その視点も重要だと思います。

②WARAKOH think and feel 東北 Vol.3 × A→Z（アートゾーン）で考える 暮らしの記憶、繋がる思い、紡がれていくことばたち

当館は、アール・ブリュットやアウトサイダー・アートと呼ばれる一般的な美術の知識の乏しい、周りに余り影響を受けずに表現している方々の作品を中心に紹介したり、私たちの身の回りにある面白いというものごとを感じ、楽しむことを目的とした展覧会などを開催しています。地域の課題である防災や減災をアートを通じ考えることや、高知の文化について考える展覧会も開催しています。その一環として、今回助成を頂き、「暮らしの記憶、繋がる思い、紡がれていくことばたち」という展覧会を開催しました。今回の展覧会を企画したのは、5つのこと－「文化」について考える、地域とミュージアムの関係の新たな可能性を見出す、アートと社会の関わり方について考える、コミュニティ・文化断絶の危機や南海トラフ大地震という高知の大きな課題に向き合う、東日本大震災による被災地の現状を今一度考える－を伝えるためです。紹介したもの自体は高知県内のことではなく、福島県という地域の思い出や記憶にまつわる私的なものですが、そこから高知の文化や、高知という地域、地域資源というものを考えてもらえたらと企画し、4つのことを行いました。

1つ目は「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」の紹介です。高知県が東部、西部、中部に分かれているように、福島県も浜・中・会津という地名で分かれています。震災で分断されてしまったこの3つの地域を、アートを通じて繋げていこうというプロジェクトで、今も行われています。今回はその中から「飯舘村の記憶と記録プロジェクト」を紹介しました。飯舘村は震災による原発事故で全村避難になってしまった場所で、そこに住んでいた人たちの思い出の場所とそこにまつわるお話を、写真家の岩根愛さんが聞きながら撮影するものです。写真とお話を併せて紹介しました。

2つ目は「くじびきドローイング」です。これは、言葉が描かれているくじ引きを引き、その中に書かれている言葉、例えば大吉とか小吉とか、そういった言葉をお題に絵を描いてもらい、自分も一つ言葉を残していく。それがリレーしてつながっていくものです。今回紹介したのは、飯舘村に住んでいた人たちの思い出などの品々を話とともに紹介することで飯舘村の記憶や思い出、歴史などを伝えていく「いいたてミュージアム」というものが浜松で展示された際に行われた、展示を観た人たちが感じた言葉、思い浮かんだ言葉によるくじびきドローイングでできた作品たちを紹介しました。この展示だけでは伝わりづらいと思い、「いいたてミュージアム」自体を同時開催で展示しました。そして高知でも、「いいたてミュージアム」を見て思い浮かんだ言葉をくじにし絵を描く「くじびきドローイング」をワークショップ形式で自由に参加できるようにし、それによって、身近に感じてもらうという仕掛けを作りました。

また、アートが社会になせることを考えるトークイベントや、ミュージアムの役割を考えるトークイベントを開催しました。

良かった点は、「いいたてミュージアム」などを並行して開催しましたので、展示自体に深みを持たせられ、日々の暮らしの中にある「文化」について考えてもらうことができたのではないかということ、トークイベントに様々な方がいらっしゃって、定員には満たなかったですが、活発な議論ができ、そういう場を作れた点はすごく良かったのではないかと思います。

反省点・課題は、あまり告知がうまくできず、来場が伸びなかったところです。また、地域や文化を考えるというこちらが意図した企画の目的よりも、東日本大震災、福島県飯舘村という言葉のイメージや写真が強く、そこが果たして伝わったのかなと思います。トークイベントに関しては、大変興味を持って下さった方より、冊子を発行したら良いのではないかというお話を頂きました。これを行えれば、別の形で伝えてい

くことができるかなと考えています。伝わりにくい展示ではあったなとは思うのですが、それをよりもっと深めて伝えるような手段や方法を考えて魅せていくということが美術館というものの役割でもあるのではないかなと思うので、こういったことを続けていきたいと思っています。

□質疑応答

Q：チラシは何枚くらいあるのかということ、発送先は何カ所くらいでしょうか。また、それ以外の宣伝というのはどうですか。

A：チラシは5000部、ポスターを100部印刷、送付は県外に50カ所程度、県内には300カ所程度、大きな文化施設には掲示や配下をお願いしました。それ以外の広報はフェイスブックが大きいです。後援申請を今回できなかったことがテレビなどに取り上げてもらえなかった原因かなと思い、反省点です。

□意　　見

●反省の中で言われたように、地域の文化、これをどういうふうにつなげて再興させていくか。高知などは特にそうですが、地域が疲弊して、それこそ部落が消滅していくというふうな中で、地域の伝統文化の意義というものが非常に大切にされているわけです。そういうところの感覚や見たときに訴えるものがあったのかというところが実際に見学をしましたが、感じられませんでした。また、ウィークデーの朝方早いうちでしたので、その点が少し問題だったかなという点と、行ったときに来館のお客さんがほとんどいなかったということもありました。開催期間も少し短くても、内容を練り上げて、分かりやすく提供して頂けたら良かったのかなというふうに感じました。

③ SHIMANTO ART CULTURE GUILDs　地域の映画を作ろう！

企画の趣旨から説明させてもらいたいと思います。映画制作という普通の方にあまりなじみのないことですが、うちのOcean Peace Filmという団体で映画づくり、自主映画の制作をしておりまして、それをもっと地域の方たちと共有してやりたいというのが最初の思いでした。映画制作というのは、音楽、舞台美術、演劇、いろんな分野が関わる総合芸術でありますので、地域に住まれてる芸術家、普通の方も含めてそれぞれの個性に合った参加の形を募ってやるということでした。もう一つの点が、四万十の中国満州開拓に行かれた人たちの歴史を映画に盛り込むことで、地域の歴史を継承していくことも含めてやりたいという事でした。それで、実際に行った企画というのが、短編の映画づくりワークショップです。5分間のショートムービーを参加者と共に一緒に作る。その次に、安藤桃子監督をお呼びして、ワークショップに参加された方たちを始めとした人たちに講演会を行い、最後は映画の上映会をしました。桃子さんの講演会から12月17までの間で、映画を実際に地域の方と撮って作り上げるという一連の流れでした。

一つずつ説明していきたいと思います。9月24日に行った短編映画づくりワークショップは、具体的に僕がまず映画づくりとはどういうことなのかということを説明し、参加者の中から俳優として演じる人、監督する人、撮影する人に分かれて実際にやってもらうというワークショップでした。31人の参加者が来ましたので、2班に分かれて撮っていきました。その後は皆で編集作業をして上映会をするという形で行いました。その後に、安藤桃子監督をお呼びして、「映画の可能性」というタイトルで講演を頂きました。来場された方の感想では、「映画の本質について学べた」「地域、高知の面白さを再確認できた」という意見を頂いております。映画自体への関心と共に、この地域で映画を作るということに対する盛り上がりや、来場者の思いをここで感じ取ることができました。その後、11月末からワークショップや安藤桃子さんの講演会に参加してくださった方の中で興味のある方に、お声掛けをして、撮影をさせてもらいました。シナリオも含めて実際に地域の方が、どういうシナリオがいいのかということも含めて撮影前からミーティングをして練り上げていって、スケジュールを決めて、撮るという形でした。役者、スタッフ、協力の方等を含めて45

人、10の団体の支援を受けて撮影を行うことができました。12月17日までに編集を終えて、上映会をしました。上映後はカメラで参加した方や俳優で参加してもらった方、音声さんをやってくれた方を交えてトークショーを行い、且つ、観た方の感想をその場で聞きながら意見交換をしました。

成果・反響は、ワークショップという形にすることによって、実際にその日、演じてみたものを最後に上映会したときに、「もっと身近になった」「まさか自分で映画を作れるなんて」という意見もあり、映画づくりが身近になったと思います。満州開拓ということをテーマにしたことで、初めて自分の住んでいる地域に戦時中の辛い歴史があった、ということを初めて知る方もおりますし、何となくは知っていたけど、映画を見て本当に詳細を知ることができた、ということもありましたので、そういったことを考える機会や、地域への眼差しということを含めることができたと思っております。

今後に向けてですが、今日映像を持ってこれなかったのは、編集がまだ完全ではなかったというのと、上映してみて、もう少しここ変えたほうがいいとか、もう少し分かりやすいストーリーにできるのではないかと思ったからです。編集期間が足りなかったということもあります。上映活動を含めて、実際に満州という中国に行かれた方の聞き取り活動も持続していけたらと思っております。住みながらアートを実践する機会をこういうふうな形で何か創出できたらと思っております。

□質疑応答

Q：参加してる人数や団体がかなり多いように感じますが、関与している人がこれだけ多かったのはどうしてですか。
また、内容的には地域に根ざしたということなので、もう少しドキュメンタリーな内容なのかなと想像していましたが、内容的にはフィクションが多く、四万十である必要はなかったのかなという印象を受けました。それをああいう内容にしたのはどうしてなのかなというのが知りたいです。

A：協力者に関しては、今まで自分たちの活動、音楽活動や講演会活動など地域で活動してきた経歴の中から参加してくれた仲間が多いと思っております。ただ、全くそういう輪の中にはいなかった方も含まれております。また、満州開拓の資料館がある権谷せせらぎ交流館という施設を、基本的なイベントの会場としたことで、そこからの紹介や、話を聞いてとの方の参加もありました。
もう1点目の質問についてですが、満州開拓という歴史をどうやって語り継いでいくかということをすごく悩んだのですが、とてもプライベートな歴史でもあるので、公的な記憶でもあるのですが、それをどうやって今の若い人たちが歴史を語り継いでいくかという時に、個々の自分に関わることにしたい、この映画を見たときにそういう思いが残るものにしたいと思いましたので、ただ単にドキュメンタリーで証言を残していくだけでは足りないと思い、映画フィクションの部分も半分ぐらい盛り込みました。主人公が自分の歴史を知っていくというのを追体験することで、自分のおじいちゃんはとか、おばあちゃんは満州に行っていたななど、そういったことを引き寄せていくことが一つ自分のルーツを辿るということですけど、地域の歴史を見る目に繋がっていくのではないか。一見、遠回りにも見えるのですが、そういう形がいいのではないかということで、こうなりました。

④ 八畝 AUTUMN FESTA 2017 ―秋は棚田劇場でアートだ―

私達の団体は、昨年、『お國と五平上演プロジェクトin八畝』という催しを行いました。この『お國と五平』は、富山県で行われた「利賀演劇人コンクール2016」という国内で一番ハードルの高い演劇コンクールで3位になった作品です。これを野外で上演したものですから、普段から付き合いのあった八畝でも上演しようということで昨年急に立ち上げたものでした。そして、今回は『八畝 AUTUMN FESTA 2017実行委員会』として大豊シャクヤクの会、高知大学の学生ボランティア団体MB、NPO法人人と地域の研究所、八畝の婦人会、私たちの劇団「おさらい会」などで実行委員会を作りました。大豊町八畝は、徳島県との県境で棚田の風景が広がっている所です。八畝は、現在33世帯71名の小さな集落です。今はもう少し少なくなっているかもしれません。私たちの今回の狙いは、舞台芸術と食農体験による「創造農村」としての試行と、アートを核とした短期のグリーン・ツーリズムの実現、都市部の住民と八畝地区の人々とのコミュニケーションの促進、舞台芸術を通した八畝地区の交流人口の増加、八畝地区の認知度上昇への貢献というようなことを狙って行いました。開催日は9月30日、10月1日です。昨年は、非常に苦しい天候の中で行いましたが、今年は両日とも天気に恵まれました。シャトルバスを高知駅から出して、八畝まで来て頂いて、地キビの収穫体験、八畝の棚田劇場、地域の食材を味わう交流会、そして、棚田トークでは何でここの棚田で行っているかという話もさせて頂きました。

一つずつ説明をすると、『カチカチ山』という太宰治の小説をベースに作った作品を兵庫県で活動している若手の劇団が上演しました。なかなかの熱演で、広がる怒田の集落を背景に、非常に良い上演ができたかなと思っております。そして、地域の食材を味わう交流会といたしまして、婦人会の皆さんがいろいろ手をかけてくださった食事をして、地キビ収穫体験を行いました。昨年は地キビそのものを畑に行って収穫するということだったのですが、今年は畑の地キビをカラスに食べられたということもありまして、乾燥させた地キビの脱粒を体験して頂きました。そして、スリットドラムの演奏など昼食会の折に演奏したりもしました。棚田トークでは、大豊町の副町長も交え、どうして棚田でやるのかいうような意見交換会をし、最後に真山青果の『玄朴と長英』を真っ暗になった闇の中で上演いたしました。劇場と違って本当に真っ暗なんですね。物語の最後に、伊東玄朴と高野長英が乱闘するのですが、高野長英が逃げていくシーンで、舞台の奥に俳優さんが飛び降りて、棚田の広がる闇の中にすっと消えていくという演出もありました。最後は大学生たちが松明を持って足元を照らしながらお客さんの見送りをしました。

企画から準備についてですが、私たちは昨年上演させて頂いたいきさつから、年末の忘年会や夏に道役（道路縁の除草や除伐）、観音堂の夏祭りにも普段から関わっております。そうやってしばしば顔を合わせることで、地域の皆さんとも非常に良好な関係を作ることができました。

今回、苦労した点としては、一番は畑の地キビをカラスに食い荒らされたという部分でした。これは後で聞くとこっちのほうが良かったということだったので、不幸中の幸いになりました。

実施当日としては、昨年よりも参加者が増えました。また、高知新聞社の高新厚生文化事業の助成も受けましたので、関西で活動する兵庫の「身体言語」という劇団を招くこともできました。昼食会も非常に好評で良かったと思っております。ただ、この日は、県内の複数のアートイベントと日程が重なっていたので、お客さんの動員に苦しんだことです。その他、初日は午後から気温がぐっと下がったことによる来場者への十分な配慮が行き届かなかったことを反省しております。

実施体制は非常に良かったなと思います。大学生たちと地域の皆さんと一緒になってお迎えすることができました。そして、苦労した点は、本当は大豊町にもっと協力してほしかったのですが、なかなか大豊の行政を巻き込むまでにはいかなかったという部分があります。それと、シャトルバスによる観客動員です。これは、もう少し伸びてほしかったかなと感じております。

□質疑応答

Q：「身体言語」さんという劇団を選ばれたのはなぜですか。
地域住民の方の参加や協力が昨年よりも増えたと思うのですが、大体どのくらいかを教えてください。
また、高知県内の劇団さんの協力はあったのかを教えて頂きたいです。

A：「身体言語」については、主宰者が高知県出身であるということがあります。また、八畝の風景を考えたときに、昼間何を上演するかと考えると、やはり山の中の話のほうがいいだろうなと思いました。
ちょうど昨年の2月に兵庫のピッコロシアターで演劇フェスティバルがありまして、観に行ったら非常に出来が良く、打楽器の扱い方も面白かったので、これを是非、太鼓の音を八畝の谷に響かせたい。そして、八畝の向こうの風景も観たいと思いました。
何人協力してくれたかという部分では、主に食事に関する部分で関わってくれた婦人会の皆さんは、５人ですが、大なり小なり色々な方が協力してくれているので、多くの方が関わってくれてます。
高知の中の劇団は、全然関わってなく、今回は私たち「おさらい会」だけです。

⑤ねこ石アート展「見て・触れて・作って楽しむ　猫の石」

ねこ石というのは海岸で取ってきた丸い石に猫の絵を描いているのですが、これを一昨年の夏くらいから地域の住民の方と一緒にコミュニケーションとか集まる場を作るということで続けてきました。ただ描くだけではなくて「何か発表できる場とかがあったらいいね」なんていう話から、今回のアートプロジェクトに参加できないかなということで応募をさせて頂きました。

ねこ石アート展の概要ですが、中土佐町の中でも四万十町の窪川に近い一番端の限界集落に、矢井賀という所があります。その住民が、登録上は240人、実際の住人はだいたい100人くらいです。この矢井賀地区の小学校が旧校舎になっておりまして、使用されていないスペースがありましたので、こちらで10月1日から11月26日までの土日祝日のみ開催をさせて頂きました。矢井賀地区で取れた海岸の石にアクリル絵の具で猫の絵を描いて、地元住民の方が描いた100作品を展示いたしました。それと同時に、来てくださった方には石に実際に絵を描いていただくワークショップの開催も行いました。利用されていない旧小学校の2階スペースの活用と、地元住民の作品の発表の場づくり、地域外の方との交流、自然素材を生かしたアートへの参加というのを目的に開催をさせていただきました。

石に猫の絵を描くワークショップは1回500円で石を2個まで使って頂いて結構ですということで開催をし、作品展のほうは入場無料で開放をさせて頂きました。旧矢井賀小学校の使われていないスペース、1階のスペースは週に1回地元の主婦の皆さんがカフェのモーニングなどを開催しております。2階部分は全く使われておりませんでしたので、こちらの図書スペースに今回頂いた助成金で照明を置かせて頂き、額縁などで飾りをさせて頂きました。展示作品については、実際に描いて頂いた、石を飾ったり、大きなものですと30cm台のものから小さなものですと2cmぐらいのものもありましたが、描いて頂いたものを本棚の上や小学校にあった家具を利用して展示をいたしました。

開催の様子としては、大体来て頂いた方の多くは女性でした。10月22日だけ台風が来ておりましたので休館したのですが、残りの19日間は全て開催しました。ワークショップでは、小さいお子様から一番上で93歳のおばあちゃんまで参加をしてくれました。皆さん作品を描いて大体の方が持って帰られるんですけれども、自分のも一緒に飾って皆さんに見てほしいという方がいらっしゃいまして、そういう方々の作品は追加で会場に展示をさせて頂きました。その他、会場については学校に残されている家具や備品を有効的に使わせて頂いて展示をいたしました。また、地元のおじちゃんたちも来て、石を見に来るというよりはコーヒー

を飲んだついでに石を見て帰るというような方もいらっしゃいました。そして、プロジェクションマッピングも開催しました。午前中1回と午後1回、お客様がいらっしゃった場合は上映をしていました。来場者についてですが、19日間で134名お越し頂きましたが、このうちの34名は初日の10月1日で、あとの日は大体平均して2名から4名くらいの方にお越し頂くような形でした。多いときは8人とか10人一緒に来られるのですが、一番少ない時は、1人という日もありました。

ワークショップの参加については、9名、実際には9件という形で石が1回で2個描けますので、親子の場合ですと1個ずつ描くというような形で実際の参加者は15名でした。内訳としては、中土佐町内が67％。町外が一番遠い方で宿毛市。あとは高知市です。

良かった点は、見る楽しみということです。矢井賀は何にもないのですが、町に見るものがないので見るものがあるということが嬉しいというふうに言ってくださって、2、3回通ってくださる方がいたのが良かったなと思います。また、見せる喜びということで、ご自身の作品ご家族、ご友人に見せたい、お孫さんがおじいちゃんやおばあちゃんを連れてきて、自分の作品を見せていらっしゃいました。そして、生まれた交流ということで展示会場の場を通して、少し見に来て、そのまま2、3時間おしゃべりをして帰られる方、お弁当を持ってきて食べる方、認知症予防になるからと言っておばあちゃんなどもいらっしゃいましたので、場としては色々な方がさまざまな使い方をしてくださったなと思いました。

反省点は集客についてです。チラシをＪＲ各駅に置いて頂いたり、中土佐町内は一家に1枚チラシを配らせて頂いたり、佐川町、大月町、須崎市の知人にはチラシを配って頂くようにお願いもしましたが、それでもなかなか集客が伸び悩みました。チラシの問合せはありますが、問合せの内容が「猫はいますか」という内容で「猫はいません」と言うと、「ああ」という反応がありました。なので、ここをもう少し考えて工夫をしていかなきゃいけないというのと、若い方はインスタグラムを見て来ましたという方がいらっしゃったので、そういったSNSを使った告知を今後検討していきたいと思いました。チーム活動についても、今回は私が個人でほとんど準備等を進めてきたので、どうしてもいろいろな視点というものを取り込むことができなかったので、できる限り多くの人数でチームで今後は開催できたら良いなと思います。

今後は、ワークショップを継続していくということと、作品のPRをもっと別の形でしていけないかということ、場の有効活用を考えていきたいと思っております。

□意　　見

- 会場を見させて頂いた時にこれは一人でされているんだなということが分かりました。先ほど言われてました様に是非、仲間をできるだけ増やして頂いて、お客さんが来て頂きやすいような視点で考えられたらどうかなと。猫好きがたくさんおりますので、小学校の市道用のところに、ねこアート展という矢印を入れるなど。少し気になったのは、これ2ヵ月間ぐらいにわたって土日祝日やってますよね。半分くらいにされたほうがいいのかなという感じがしました。いつでも行けると思ったらなかなか行かないものなので。

- 地域の学区の小学校、それから保育園に声を掛ければ親子で来るというようなこともあるのではないでしょうか。また、もう少し幡多地域全体に広めるなど、色々なやり方もあると思います。1年目で試行錯誤され、長い期間ですけどよく元気になさったなと思いました。

第67回 高知県芸術祭事業実施報告書

⑥打楽器の祭典VOL.2

『打楽器の祭典VOL.2』ですけれど、VOL.2ということですのでVOL.1もございまして、幕末維新博と関連して、2年間で4回、この打楽器の祭典をやろうということで取り組んでいるところでございます。開催日は平成29年10月14日土曜日でございます。17時から1時間で行いました。会場は立川番所でやっております。入場料は無料、入場者数が81名でした。

内容としましては、国の重要文化財である旧立川番所書院を舞台として、奏者に『TAIKO-LAB』と、市川心之輔さんを招いて、和太鼓とドラムをコラボした音楽イベントを実施しました。公演については、T-LABに属す佐藤秀嗣さんという太鼓の奏者がいらっしゃるのですが、この方がジャニーズ事務所や石原プロダクションの太鼓の指導をされてる方なんですけれど、その方と市川心之輔さんをお招きして行った太鼓のコラボユニットだったということです。

その中で良かった点は、まずは企画から準備ですが、プロの音楽家の助言があったということです。市川みどりさんという埼玉県の所沢で音楽スクールを経営されている、高知市ご出身の方ですが、お父様が大豊町出身なので、何かご支援しましょうということで、立川地区で古民家を買われて、夏に埼玉のほうから生徒さんを連れてきて合宿などをされていることもあり、その方がこういった企画に携わってくださり、奏者のご紹介をしてくださりました。

実施当日は、番所の持つ雰囲気と和太鼓が調和したということで、予想以上に盛り上がりました。晴天であれば野外でやるということで、企画段階から進めていたのですが、その当日も雨の予報であった為、屋内に急遽変更して行いました。そのことで演奏スペースが狭くなって少し心配はしたのですが、アンケートでは、「和太鼓と古民家がよくマッチしてた」「室内での演奏が、だから良かったんだ」という高い評価を頂けたのが良かったです。

実施体制で良かったことは、地域全体での取組ができたということです。これは昨年度から、この助成金を活用させて頂いておりますけれど、最初はやっぱり文化というのが余り触れることがないので、この地域の方も余り関心がなかったのですが、継続して事業を、そして市川さんというキーとなる方が盛り上げて頂けたお陰で、地区全体で準備に取り組んだり、当日の駐車場の整理など、一体感が生まれたということが良かったと思います。

苦労した点、反省点は、やはり天候の対応は大変難しかったなと思います。昨年度は、雨だったのですが、強行的に野外で行い、イベント途中で室内に変えたということもございましたので、今回は慎重になって、室内で行うことにしました。これは良かったのかどうかというのが不安なところでございました。それと実施当日ですが、屋内への変更によって演出の変更があり、当初野外では7mの長さで行う予定を4m50、3mくらい短くしたので、当初やる予定だった演目も変更して行うようになりました。リハーサルでは余り良くなかったので、これは大丈夫かなというところで奏者の方も頭を抱えてたところがあったのですが、何の違和感もなく開催して頂けたところが助かったなというところでございます。

最後に実施体制ですが、記録体制の不備ということで、昨年も少し記録体制がうまくいっていなくて、これも機材の関係でしたが、今回は機材の方は揃えてて、動画も撮れたのですが、映像は記録者が良くなくて、何か伝わらないような画像ばかりでした。来年はプロの方を構えて、使える記録を撮りたいと思っております。

その他、気付いたところですが、81名の中で51名の方からアンケートをとりました。84％の方が良かったと評価して頂けたということと、関東圏からいらっしゃった方からは、「こんなにいい建物があって、どうしてもっとPRしないのか」という意見を頂き、関東圏の方にも立川番所の良さを感

じ取って頂けたというのが良かったかと思います。悪かったところは、告知で1500枚程チラシを配ったのですが、町外の方の集客が伸びなかったというところで、この部分については次年度以降、もう少し考えて一生懸命、集客に努めたいなと思っております。

今後の展望としましては、継続した音楽イベントを開催したいと思っております。市川みどりさんを中心にして、幕末維新博との連動をとって、VOL.3、VOL.4ということで行いたいと思っております。実際に、今年4月29日に開催が決定しておりまして、今度はスティールパンの伊澤さんという方を呼んで開催することを決定しております。

□意　　見

- 立川番所書院の左側の雨戸が閉まっていました。照明が入ると建具のラインが全部浮き上がって出てくるのですが、雨戸閉めていましたよね。あれを開けると、中の照明全部効いて建具のラインが全部出てくるので、外から見ると非常に感動的な立川番所書院になったと思います。ここへ入るまでに参勤交代の集落形成や、龍馬の脱藩、水戸の藩士と会うなどもありますので、そこら辺をうまく歴史文化と絡めたコラボができれば、非常に素晴らしいものになると思います。

⑦ 中岡慎太郎顕彰短歌大会

龍馬と比べると慎太郎はメディアに取り上げられることが少なく、知名度や業績が余り知られていないので、それを知ってほしいということ、今回は妻、兼さんが作った歌というのがあって、それも知ってもらいたいなということや、その歌が短歌ということで、この伝統文化を高校生以下の人たちに親しむ機会を作りたいというのと、あとは、短歌大会を通じて賞品となる、ユズ製品のPRになったらなということが目的となっております。

次に、短歌大会の事業概要と準備についてです。短歌大会は開催したことがなかったのですが、高知県歌人連盟というのがありますので、そこの短歌大会に載せて頂いたり、香美市猪野々に吉井勇記念館というのがありまして、ここが全国の短歌の応募を公募をしている短歌大会を開催していますので、ここに2度ほど寄せてもらっております。あとは昨年度28年度にプレイベントとして中岡兼賞という賞を設けまして、高知県内のみで公募展を開催しております。経験をしたいということでやりました。また、短歌の選者の依頼を高知県歌人連盟からそれぞれ違う会の方を3名先生に選んでもらい、高校生以下の子は専門家ではなくインターネットで調べて、高知大学の文芸創作サークル海老銃に連絡をして、依頼を受けて頂きました。

準備としては、顕彰会にホームページがないので、北川村観光協会のホームページに応募要項チラシを掲載して頂いたり、高知新聞に掲載して頂きました。また、全国の短歌会は700カ所以上ですが、そこに応募要項チラシを送付しました。そして、幕末時に活躍した人を多く輩出しているということで、九州、山口のほうに宣伝旅行に行きました。高校生以下の部に関しては、中芸地域の小・中学校を中心に応募依頼をしました。

それから事業概要と結果についてです。公募期間を平成29年の4月1日から3カ月間とりました。一般の部は112名で県外の方が51名参加してくれました。230首送ってきて頂いております。高校生以下の部は116名で県外が25名でした。140首送られました。投稿料は、一般の部で2首までが1000円、高校生以下は無料にしました。選歌期間が7月1日から2カ月半ほどでした。作品集の編集はこちらでしまして、発行部数は130部ほどです。

短歌大会当日は、ちょうど台風で雨模様だった為、入賞者の来場者は9名でした。入選作品を慎太郎の生家で約1カ月展示いたしました。

アンケートは、入選・入賞者と学校関係に送り、136枚、回答数が59枚です。うち51枚が1つの中学校から来ていました。8枚が一般の方です。アンケート内には、「短歌大会を是非続けてほしい」「中岡夫妻のことを全国に広めてほしい」「男性の選者も必要じゃないか」など、あと副賞の「新米、ユズがおいしかった」というのがありました。小学校の感想としては「楽しかった」「来年も参加したい」が多数でした。中学生以下の人には応募要項には載せなかったんですけど、参加賞のストラップを送りました。

成果と反響については、短歌大会のときに千葉県から来られた方がおりまして、短歌大会が終わった後、じっくり中岡慎太郎館のほうを見て回られて、その後に顕彰会のお店兼事務所のほうへ寄られたので、ゆっくり話をされて行ったのですが、本当に慎太郎について知らないことばかりだったので、ここに来て良かったという話をされてました。その言葉を聞いて開催して良かったなという思いがあります。中学校でも、授業で取り上げてくれたというのがすごく嬉しかったです。

□意　　見

- 短歌大会への参加者が少なかったということですが、全国短歌大会と銘打って短歌を募集される場合、全国的に多くの同人を持つ方や全国的に名の知られた方が選者の中にいらっしゃると、より多くの方が投稿してくださると思います。
  ここでもマーケティング・リサーチが大切になってきます。
  折角、九州・山口まで大会の宣伝にいかれているのですから、ご一考いただければよかったのではと思いました。
  けれども、参加者からは、嬉しいお声の数々をいただけて本当に良かったです。
  大会を単発で終えるのではなく、今回の反省を踏まえて、第２回目の短歌大会が開催されますことを願っています。

⑧ 鵜来島ボウル研究所2017

僕は、鵜来島に3年くらい前に移住しまして、『うぐるBOX』という事業をやっています。観光とか民泊とかやってる者なんですけども、一応、今回のプログラムの一つで、映像と写真を作らせてもらいました。

映像は、短くしてユーチューブなどで流せるようにしてもらった映像になりまして、実際もうちょっと長いものになっています。鵜来島は、宿毛市にある離島で、人口が20名くらいの小さな集落になります。

企画・構想としては、島の情報が結構少ないので映像とか写真を利用して、より多くの人に来てもらえるような活動をするだけではなくて、それを作品として発表というのがありまして、今回応募させて頂きました。

今回、その島から発表するのと、外から島へ発表するという点で最初、武内さんという作家さんに参加してもらったのですが、武内さんのやられている『ラフディップ』というカフェで、写真の展示をさせて頂き、5000万画素のA0サイズという大きな写真を作って頂いて、そこで映像も流して、よりいい鵜来島の宣伝を香美市から発信していくような形を作らせて頂きました。また、今回、少し至らないところで正確なアンケートを作れなかったので、もし次回やるときは、反省を踏まえてやりたいなと思っております。大体お店に来られている数を聞いたら、1日10人から20人くらいということなので、大体期間から換算して200人くらいに来て頂けたのではないかなと思います。

鵜来島での展示も行う予定だったのですが、僕も移住者というところもあって、地区との連携不足というか、島の方とのコミュニケーション不足なところもあって、やりたいことの半分くらいしか実際はできなかったのかなというのはあります。

『ラフディップ』のお店では最終日に、トークショー・交流会も開催させて頂いて、参加費も食事代として少し頂いて料理を振る舞ったり、意見の交換をしたりと魚は鵜来島の魚を僕が調達して持って行き食べたという形でした。

鵜来島では、展示はできなかったのですが、料理研究発表会というのも企画させて頂いて、関西の知り合いの料理人さんがいらっしゃるので、鵜来島の食材を使って発表したのですが、フェイスブックを利用して県外の方中心に来て頂きました。岡山のほうから参加しよう、フェイスブックを見て行きたいという方がおられまして、他の方は料理人のお知り合いの方を複数人連れてきて頂いて、実質7人くらいとスタッフと島の方で、総勢11人程度になっております。そのときも島の料理を作ったのですが、料理に関してこちらも準備不足なところがあって、もう少し島の食材を使えれば尚良かったなと思います。野菜や肉、ジビエなども実際あったのですが、使え切れなかったところがありました。そういう反省もあります。

今回、企画準備でいろいろあったのですが、ポスターなどのお金をかけれないところで予算を使わせて頂いて、より良いポスターができて良かったと思います。反省点としては、島の人と関わりが少なかったことや、少しトラブルもあってできなかったというところもあるのですが、今後としては、集落活動センターの副会長もさせてい頂いていまして、今年、鵜来島で観光などのイベントを今計画しておりますので地域の方とより連携して、この流れを作っていき、島がより活性化できるようなことを今後計画していきたいと思っております。

□意　　見

- 香美市の『ラフディップ』も見せて頂きました。写真も素晴らしいし、映像も良いものだったと思います。ただ、あそこはお客さんがたくさん来るので。お客さんが座ってる机の周りを歩き回って見るというのは、やっぱりお客さんに迷惑みたいなこともあるので、ゆっくり見れる場があれば一番良かったと思います。鵜来島も、写真にあるように素晴らしい景観と風景と歴史文化のあるところです。ただ、料理研究発表会は、20人くらいの集落なので、港で開催すると思っていたところが、地元の人に聞くと「そんな話は誰も聞いてないよ」という話になったので、そのあたりが先ほど言われていた住民とのコミュニケーションがあんまりうまく取れてないというところだと思います。そこが上手くいったらこの企画は素晴らしいものになると思います。沖の島と鵜来島との関係、戦争遺跡みたいなのもたくさんあって、そういうものも絡めた仕掛けが今後できれば、素晴らしい地域活性化の企画になります。

⑨いろいろいろを楽しむ演劇
～1年目「楽しむ」を学ぶ語る試す（セミナー、ワークショップ）

私たちの劇団、『シアターTACOGURA』は高知市南金田にありますアートゾーン藁工倉庫内の多目的ホール『蛸蔵』を活動拠点にしている小屋付き劇団です。『シアターTACOGURA』には劇団の定款というものがありまして、幾つか内容はあるのですが、今回は文化芸術活動と地域社会の関係をより豊かにというところにスポットを当て、『いろいろいろを楽しむ演劇』と題して企画をいたしました。内容はと言いますと、障害のあるなしに関わらず演劇作品を作り上映するといった企画です。1年目は学ぶ、2年目は触れる、そして3年目、2019年はゴール若しくはスタートとして高知県で作るを目指しております。

事前活動は、『じゆう劇場』の視察・ヒアリング、県内障害者支援団体へのヒアリング、学習会、企画立案、当日はドキュメンタリー映画の上演会、セミナー、意見交換会、支援団体でのワークショップの実施・見学。未来、2年目に向けては、継続的なチャレンジを行って参ります。9月16日に『じゆう劇場』の視察に鳥取県に行って参りました。『じゆう劇場』とは『NPO法人鳥の劇場』のプロデュースを基に立ち上がった劇団で、障害のあるなしに関わらず作品を作られている団体です。また、『鳥の劇場』は鳥取県の廃校になった小学校と幼稚園を劇場に変えて演劇活動をされている団体です。視察内容は、9月16日に『「ロミオとジュリエット」から生まれたもの』を観劇しました。芸術作品としての感動と説得力、また、鑑賞のアクセシビリティを感じました。鳥の劇場の理事兼演出家の中島諒人さんより、活動する上での困難なこと、やりがいなど叱咤激励を頂きました。台詞が聞こえづらいお客様の為に手持ち型字幕装置をスマートフォンで貸出しが行われておりました。続いて上演会やワークショップに向けて県内の障害者支援団体『アートセンター画楽』さん、『Uプロジェクト』さんにヒアリングを行いました。また、多田淳之介さんのワークショップ、企画立案、試作を行いました。多田淳之介さんは、『東京デスロック』の主宰であり演出、また『富士見市文化会館キラリふじみ』の芸術監督をお務めになっております。数多くのワークショップを重ねられ多岐にわたり活躍されている方です。ワークショッププログラムについては多田さんと一緒に作成し、児童の反応が事前に想定しにくいこともあったので、事前に幾つかプログラムを考えて持っていきました。ここまでの事前事業で、本事業を行うに当たって不安が随分と解消されたように思います。

11月4日、いろいろいろを楽しむ演劇、上演会、トークイベント、意見交換会を行いました。講師には先ほどご紹介しました多田淳之介さんをお招きし、高知新聞にも取り上げて頂きました。本来ならば鳥の劇場の中島さんにもお越しいただく予定だったのですが、ご都合により動画配信での参加となりました。上演会とトークイベントには藁工ミュージアムさんのお力添えも頂き約50名が参加、意見交換会には約30名が参加してくださいました。実際に聴覚や視覚などハンデのある方や多様な方に来場して頂きまして、事前に手話通訳や字幕での対応ができました。上演会は、じゆう劇場さんのドキュメンタリー映画を上映いたしました。演目は『銀河鉄道の夜』だったのですが、障害を持った俳優さんの個性が光る作品で、大変、心揺さぶられるものがありました。トークイベントでは講師の多田さん、アートセンター画楽代表の上田さん、藁工ミュージアム松本さん、スカイプにて、じゆう劇場の中島さん、当劇団演出の藤岡、計5名で障害のある方、ない方交えての創作活動についての想定される課題や本プロジェクトに期待するものなどお話をして頂きました。福祉と芸術の関わりや経験のある方々からの学びをしっかりと教えて頂き、今後の活動に勇気が湧いてきました。また、その後、意見交換会がありまして、他劇団の俳優さんや福祉施設、行政、美術や医療関係者、また障害のある方、保護者の方、地域の方々など、多様な方々が参加してくださいました。大変盛り上がって、その後、地域の方からの提案で22時から二次会にも行くということがありまして、是非この熱量を2年目、3年目の活動に生かしていきたいと思っております。

また、翌日11月5日、Uプロジェクトさんに行っての多田さんによるワークショップを開催しました。当劇団からは3名、見学兼アシスタントとして参加、また一般の方にも3名ほど見学に来て頂きました。ワークショップは変身ワークショップと題し、紙コップや紙皿、カラービニール袋を使って思い思いの登場人物に変身していました。武器屋さんや勇者やロボットなど本当に多様な登場人物ができました。想像して何かを作ることが苦手な子もいましたが、Uプロジェクトの職員さんのサポートもして頂きながら積極的に触れ合うことができ、どう振舞うべきか学ぶことができました。

11月4日、5日のまとめとしては、運営の構築をしながら学ぶことができ、大変勉強になりました。また、聴覚・視覚に障害を持った方が参加してくださり、よりリアルな声を聞くことができました。ワークショップが工作メーンになってしまったこともあり、演劇までの時間を作ることができなかったので、次回開催するときはワークショップを2回に分けて開催するなど、経験を積みながら内容を考えていきたいと思いました。

2年目に向けて、今回の事業での経験を生かし、毎年シアターTACOGURAでは12月に子供向け公演を行っているのですが、その期間中に障害を持った児童への招待講演を実施しました。子供を豊かに育てたいというニーズが家庭にも地域にもあるということを実感できました。また、1月30日の火曜日7時半より『いろいろいろを楽しむ演劇』の関連企画としまして、いろいろいろトークカフェというものを開催します。も

しご興味のある方いらっしゃいましたら是非参加のほうお願いいたします。2年目、2018年なんですが、触れるということをテーマにじゆう劇場の招聘公演、ワークショップ、学習会は継続的に行い、経験を深める一年にしていきたいと思っております。また、鑑賞のバリアフリー化を目指し、通常公演でも取り入れていきたいと思っております。助成を受けたことにより、大きな一歩を踏み出せたかなと思っております。

□意　　見

- 地域の共生型のまちづくりというのが物すごく今重要視されてる中で、こういう形のものは今後頑張って頂きたいなというところが一番の思うところです。どの地域へ行きましても実際の障害者の方が堂々と胸張って町歩けてるという状態ではない。逆に言いますと、それをご理解頂くという機会が大変必要だろうと思います。生きがいづくりという意味でも役立つかなと思いますので、頑張って頂けたらなと思います。

⑩ 高野農村歌舞伎

津野町高野地区は、高知市から西北に約75km、1時間半くらいのところにあります。津野町の西の端になります。昨年の11月11日土曜日に4年ぶりに農村歌舞伎を開催いたしました。4年ごとにやるという決まりの中でやっておりますが、国の指定の重要文化財、高野の舞台という我が国に現存する唯一の廻り舞台、鍋蓋上廻し式という舞台がありますけども、その舞台を使って高野地区民、70戸ほどの集落ですけども、地区民によって開催をしております。今回も約500人程のお客様が県内外からお越し頂きました。昭和52年に20年間途絶えていた歌舞伎を復活して以来、今回まで4年ごとに開催してきました。ちょうど今年が復活して40周年ということで、普段は演目が3つくらいですが、今年は欲張りをして『浄瑠璃式三番叟』、『虎太郎魁大和錦』というオリジナル歌舞伎、そして『神霊矢口渡』、『義経千本桜』という4つの演目を行いました。

成果としては、毎回そうですが、会場では観客席が野外になります。三嶋神社の境内が観客席になるので、ゴザを敷いてという形になりますが、とにかく早くからファンがたくさん来て、お昼頃からは場所取りが始まるという感じでした。大変、今回も注目度が高かったように思います。役者や裏方などそのほとんどが素人の高野地区民ですが、経験者が多いので、割と落ち着いてユーモアを交えたり、台詞の中で観客からの笑いを誘ったりなど、そういうことによって歓声が上がったりしました。

先ほど言いましたように1演目多い4演目を上演をしました。特に、幕末維新博を今開催しておりますけども、津野町は龍馬の先を駆けた男、天誅組総裁の吉村虎太郎を輩出した町でもあります。そういうことから、オリジナル歌舞伎「虎太郎魁大和錦」という歌舞伎を作っているわけでございますが、この演技では本当に観客をくぎ付けにし、大変感動を与えたと思います。

反響についてですが、今年は東京からツアーで20人程度来て頂きました。その中の方から「素人じゃないみたいだ、非常に完成度が高かった」「役者さんの努力が見えて感動した」というような声をお聞きしました。「4年に一度と言わず毎年見たいな」という声も聞かれましたし、「子供から大人まで熱心に演じられ感動した」という声がありました。このように、下は2歳から大人が67歳までの子供から大人まで今年は頑張りました。子供たちはこの地区の宝物であるので、この年代頃からこういう経験をすることは将来にわたっても非常に良いことかなと思います。側面からは、婦人会の皆さんが前の日から準備をして、寒いので温かいものを用意して頑張ってくださいました。

良かった点は、企画準備については、毎年１月に高野地区の初会があります。このときに今年どうする？いつやるみたいなところで日程を決めます。実施当日は天候にも非常に恵まれ500人くらいの観客動員ができ、何といっても無事故で終了できたことが良かったです。それから、役者は経験者が多く、お互いを励まし合って良い雰囲気で歌舞伎ができたことです。

実施体制としては、高野農村歌舞伎保存会としておりますが、地区民全員が保存会員となっておりますが、皆さん総出でやるという地区行事として開催しております。

そのほか気付いたことは、客席と舞台との一体感が今年もあったなと思います。結構お客さんを喜ばすことをその場でアドリブをやるという、そういうことも結構皆でき始めました。

苦労した点ですが、何といっても各自が仕事を終えて午後7時頃から三々五々、集まってきて練習を開始するので、時には深夜に及ぶこともあったりして大変でした。長丁場に渡りましたので、結構、精神的に疲れることもあったかなと思います。そういった面では家族の理解や、協力なしでは到底成り立たない面もあるのですが、特に初心者にとっては歌舞伎という独特の台詞回し、また演技等、覚えるのに苦労したような感じです。予め舞台も作るのですが、今年は雨の中での舞台づくりがあり大変苦労したことがありました。そして上演時間が夜間で、先ほども言いましたように野外のために大変寒い思いをした方が多かったかなと思います。そういう面では、開催時期をもう少し早めにしたほうが良いかなと思いました。そういう面では保存会の役員の気苦労は、大変なものが毎回あります。

□質疑応答

Q：4年に1度、開催されていて今回は助成を受けて開催されたということですが、4年前まではどうされていたのでしょうか。また、津野町役場など行政との関係性や、そういったところからの支援というものがないのかどうか。あともう一つは助成金をもらったことによって、新しくできたことがあれば教えて頂きたいです。

A：以前は地区の重立った人たちが各地区を回ったり、市内まで出て、ゆかりの人たちから寄附金を集めて運営をしておりましたけれども、近年になって町のほうとしても大事な伝統文化であるということで積極的にご支援を頂いて、この費用のほとんどは町の補助金で運営してます。この助成によって新たにというか、毎回同じようなことで費用としては大体いっていますので、音響や照明ももちろん大事ではありますが、特に舞台では、毎回の練習などの面ではストーブも要りますので、そういったものの燃料費などに使わせて頂きました。

⑪ 書道家 石井誠「生」展

展覧会開催中の12日間での来場者は、延べ1136名。東京、大阪、神戸、広島、山口など遠方からの来場者もあり、広がりのある展覧会となりました。

事業内容です。3つ目の「花」プロジェクトといいますのは、来場者に花をテーマに作品を作って頂き、石井誠さんの作品とコラボして展示する来場者参加型のプロジェクトのことです。どのような展覧会にするのか、地域の方々、学校関係者などと意見交換を重ねました。大変だったのは、皆さんにお時間を作って頂いて集まって頂くということ、また、職業や経験の異なる方々とのミーティングでは、意見が大きく分かれたりすることも多く、まとめていくのが大変ではありましたが、その中から来場者参加型「花」プロジェクト、書道パフォーマンスというアイデアも生まれました。また、応援してくださるサポーターを募り、口コミやSNSを活用して情報発信や「花」プロジェクトへの参加を呼び掛けました。

作品は、手島右卿賞受賞作をメーンに各部屋ごとに特徴を出して展示することで、楽しくゆっくりと見て頂けるように工夫いたしました。案内状は二つ折りのパンフレットを作り、郵送のほか、手渡しなどで積極的に広報を行いました。また、地元新聞の丁寧な取材があり、集客数が大きく伸びた点も大変有り難かったです。反省点としましては、手島右卿や右卿賞のことについて知らないという声を会場で多く聞きましたの

で、右卿についての資料を配布用として作ったら良かったと思いました。

初日のギャラリートークには参加者68名、石井誠さんのパートナー井川朋子さんに作品解説をして頂き、参加者からの質問にも答える形で行いました。反省点としましては、初日とギャラリートークの日が重なりましたので、駐車場が一時混雑し、お待たせするなどご迷惑をお掛けしました。

書道パフォーマンスをお願いした高知学芸高校書道部についてです。本番の1カ月ほど前から何度かクラブ活動の時間にお邪魔して、練習から本番当日までを記録していきました。本番が近づくにつれてめきめきと上達していく姿は大変頼もしかったです。また、部員の皆さんや担当の先生との打合せでは、学生の積極的な参加で、パフォーマンスの内容や詳細が次々と決定していきました。「世界に一つだけの花」という作品と学校での練習風景、本番のパフォーマンスのビデオは会場に展示して最終日まで来場者にご覧頂きました。若い方たちが書道に真剣に取り組み、はつらつと活動している様子を見て、来場者からの反応は大変良く、反響も大きかったです。学生は来場者との交流も積極的に行い、実りの多い有意義なイベントとなりました。

「花」プロジェクトの一環として「花」ポストを作りました。ポストに投函された作品を順次、壁に貼っていくということで、日を追うごとに作品が増えていく変化する壁面はリピーターの確保にも繋がりました。「花」プロジェクトには高知西高校美術部の皆さんにも参加して頂きました。書道だけではなく、他の分野とコラボレーションすることで、いろいろな方に興味を持って会場に足を運んで頂く良いきっかけになったと思います。

ＮＨＫの情報番組「ブレイクスルー」を上映しました。石井誠さんの生前の姿や言葉、緊張感のある作品制作風景を見て感じて頂く強いツールとなりました。また、石井作品の理解にも一役買っていたと思います。

来場者とのコミュニケーションの一つとして、コメントノートを設置いたしました。「初めて書道展に来ました。書のことは何も分かりませんが、石井さんの作品に出会って、生きることをもう一度考えるきっかけをいただきました」60代女性。「県外や海外でも展覧会をしてほしい。ビッグになって手島右卿賞や書道のこと、高知県のことも宣伝してほしい」30代の男性。「学生が参加されていたのがすばらしかったと思いました。若い方に負けないように生きなければと思いました」70代の女性。「「花」プロジェクトに家族で参加させていただきました。生きることについて子供と会話する良い機会になったと思います」40代の女性。このほかにもたくさんのコメントを頂きました。

今回の石井誠展を通して、書道も含め様々な地域文化を大切に思うたくさんの方に出会い、未来につながる希望が持てました。特に学生や家族での参加は嬉しいことでした。協力してくださった方々の思いや繋がりを大切にして、これからもいろいろな角度から粘り強く丁寧に繰り返しアピールを続けていきたいと思います。

□意　　見

●私も実際に伺ったのですが行ったのですが素晴らしいものでした。星ヶ岡アートヴィレッヂは大きい会場ということではなかったのですが、入った瞬間に石井さんの大きな作品が目の前にある。私は、書道については詳しくないのですが、石井さんの生きることの魂が私の心に飛び込んでくるというか、ぶつかってくるような印象があり、これはすごいという感覚が第一番でした。本当にこの芸術というのは人を感動させるものだと、感動するためのものは何かといいますと、姿形ということではなくて、芸術作品の裏にある生きることの魂、心がいかに相手に伝わるかということなんだなと改めて思い知らされたということでした。その当日、学芸高校、西高校の生徒さんがおいでるという話もお聞きしまして、この心、この志、

魂が後へ伝わっていくんだなという実感も抱きまして感動した1日でした。

⑫二人芝居『絵金縦遊伝～漁り火の向こう～』
―幕末土佐を生き抜いた孤高・異端の絵師「絵金」と妻初菊の物語り―

高知の幕末土佐を生きた絵金さんという天才絵師の物語をやりたいということでずっと目標として、絵金さんが芝居絵屏風を大成させた、多くの作品を残した赤岡町で高知の皆さんに観て頂こうというようなことで始めました。絵金さん、高知の方でも知らない人たくさんいると思いますが、演劇を通してこういう絵師がいたのだということも広まっていって欲しいと思いますし、過疎化が進んでいる高知の赤岡という小さな町が、今後、絵金や他のことでも注目されて、人が町を歩く動線ができたら良いかなと思っています。

僕らの劇団は東京で活動しておりますので、せっかく芝居をするのであれば、我々が東京から芝居を持ってきて、終わったら帰るというのではなく、何かしら地域の人たちと一緒にする工夫が必要かなと思い、赤れんが商家さんをお借りして、アート展なども同時開催しました。僕らのチームは、スタッフにも高知の方々がいて、東京、高知の混合チームとして、何か江戸と土佐を結ぶ橋渡し的なことができないかなというふうに思ってます。

絵金さんの作品は過去に映画やミュージカルになったこともあるのですが、僕らがやりたかったのは、本当に生きて、笑って、泣いて、一人の人間としてあたかもそこにいるリアルな絵金さんでした。僕もこの芝居のために一生懸命、土佐弁を勉強していますが、まだまだと言われます。この芝居を立てるために、この8年で17回高知に来てます。どういうふうに絵金さんが愛されているかなど、そういうこともリサーチをして図書館に行ったり、あとは役者なので、実際に絵金さんが歩いた町へ行って、体内地図を作るというか、これぐらいの距離で浜に行けるんだなど、生まれた場所から鏡川までどれくらいなのかなど、絵金さんの生きた環境に身を浸すということも含めて、高知に何回も足を運んでます。

高知の方々にすごく手伝って頂いて、チラシ、ポスター、様々な所に貼ってもらったり、置いてもらったりもしています。同時に私達は東京で稽古してて、高知で観たいのだけど、東京から出られないという人もいるのでプレイベントをやりました。イベントでは、高知の宣伝、絵金の宣伝をさせて頂きました。このときは高知からのゲストとして、田中たい子さんという赤岡で活躍されてるイラストレーターの方が観に来てくれたりもしました。

大変だった部分は、東京在住なので、なかなか宣伝活動というのが的を絞ってやらないと、うまく浸透していかないなというのがありました。ネットではSNS、フェイスブック等を使ったりだとか、クラウドファンディングを開始したりして、色んな方法で絵金縦遊伝というのをやるんだよと言い続けて、何とか認知度を上げていこうとしました。

「絵金縦遊伝応援しちゃってよの会」では、高知市内で僕らが動けないので、高知市や赤岡の近辺など、そういう所にチラシを配布して頂いたり、地元の方々の助けがないといかんということで、高知出身のスタッフや役者の同級生や、マスコミ関係の方などさまざまな方に協力をして頂いて宣伝をすることができました。新聞や雑誌、テレビなどでも取り上げて頂き、何とか絵金縦遊伝やるんだというムードが少しづつ出来上がってきたのは有り難かったです。香南市の『こうなんNOW』という広報紙で、「絵金縦遊伝の特集記事を！」と言って下さっていたのですが、香南市の赤岡に住んでいらっしゃる田中たい子さんという方が、「私は絵金さんの弟子になりたかった」と言うぐらい絵金さんのことが好きで、僕が絵金縦遊伝のグッズを作りたいので描いてくれというような話をしたところ、本来はTシャツなど他のものになる予定だったイラストが、『こうなんNOW』の表紙にまでして頂き、広めてくれました。

芝居だけではなく、地域の方々と一緒にいろいろやろうということで、一つは幕前芝居を高知の3チームの方々にやって頂きました。もう一つはさっきの田中たい子さんの『スタジオハンズたいびんび』さんとのコラボ商品として絵金縦遊伝のグッズを作ってみようとなりました。それから、赤れんが商家のほうでは2人の若いアーティストに展示をやって頂こうということで同時多発的に開催しました。

反省点としては、大規模な芝居をやるということで、大道具一式、衣装などを全て東京から運ばなくてはいけなかったりと、いろんな方々に手伝って頂いたのですが、やはり人手が足りず、厳しい面がありました。もう少し下調べをしたら良かったなと思います。

公演当日は、多くのお客さん来て頂いたのですが、県外からも、東京、京都、九州、島根などから来て頂きました。また、赤岡の方たちが多く来てくださり、喜んでくれたので良かったと思っております。ただ、チケットがぎりぎりまで売れるか分からないよと言われていましたが、当日になってからばたばたと連絡が入り、客席の作り方が読めないというのがあり大変でした。また、カシオのゴルフトーナメントがちょうど同じ時期に開催しておりましたので、タクシーなども全部そちらに取られてしまったり、宿が埋まっていたりと少し大変だったので、下調べをしなかったこちらのミスですけれども、今後は気を付けたいと思います。

今回、香南市の職員の方々も手伝ってくださり、多くの方に手伝って頂き、すごく助けられました。仕事量が多過ぎてミスもちらほら出たので、次回に生かしたいと思います。各メディアに取り上げて頂いたり、観に来た人がとにかく感動してくださって、すごく高い評価を得たので、もっともっとスキルを上げていくことも大事ですが、今後も続けていきたいなというふうに思っています。助成金を頂いたことで、とにかく輸送費、それからキャスト・スタッフの交通費や宿泊費、その部分が厳しい状況だったのですごく助かりました。ありがとうございます。

赤れんが商家では、竹山美紀ちゃんという土佐和紙を愛する女の子のと、高知に住みながら、すごく色が印象的な絵を描く上島豊正君という男の子2人で土佐和紙と絵の展示を行いました。

今回できなかったこととしては、中学生、高校生との連携や地域の人たちとどうやって繋がっていくかというのを考えて、ワークショップをやろうと言っていたのですが、届かなかったかなというふうには思います。でも、弁天座という小屋に来てもらって、赤岡初めての人に赤岡を歩いてもらったりできたので、それは良かったと思います。今後は、再演ももちろんしたいし、ドキュメンタリー映画をずっと密着して撮ってくれてる監督さんがいますので、そういうのも同時並行でやっていきたいなと思ってます。和泉彩雨監督さん、すごく若いんですけれども、今回、監督さん自身が僕らの芝居を通して赤岡に触れ、絵金に触れ、そして高知に触れました。この作品を高知のどこかで上映したいなというふうに思っております。

□質疑応答

Q：今後の展開として、ドキュメンタリー映画の上映会ができればというのあったと思うんですけれども、この作られた演劇そのものの新しい展開みたいなことを、もし考えていらっしゃることがあれば、お伺いできればなと思います。

A：再演も当然考えていますし、あと今回は夫婦物語という切り口で、絵金さんと奥さんの話をちょっと類推しながら書いたんですけども、幕末に生きてた人で絵金さんの弟子として例えば武市半平太さんや河田小龍さんも絵金さんの絵の弟子なんですよね。当然そういう時代に生きてたので、幕末の志士たちとか、揺れ動く動乱の時期に活躍してた人たちとの交流という切り口で書いてみるなど、今回は、漁り火の向こうでしたけども、また別のサブタイトル付けてやりたいなというふうなことも考えてますし、ドキュメンタリー映画以外に絵金さんのお芝居の物語も映画化したいなとかいろいろ考えてます。ただやはり大所帯で東京から高知に来るというのは、時間も準備も要るので、今後はどういう形でできるか分からないのですが、僕としては毎年でもやりたい気持ちはあります。

第67回 高知県芸術祭事業実施報告書

★意見交換★ ※一部抜粋

- 各団体、集客の部分などで多くの課題があると思いますので、今後もう少し早い採択が決まった段階で採択団体が集まって、いろいろなところを情報交換しながら事業が進められるような形にしていくと宣伝効果も高まると思いますし、繋がりがよりできてきて面白いものができるんじゃないかなというふうに思いました。

- ホールの催しでは、内容は良いのに集客が少ないと告知が足りないんじゃないのと叱られることが時々あります。それなりに一生懸命やっているのですが、なかなか難しいですね。なので、私たちは、本番の１ヵ月前とか２ヵ月前ぐらいに関連したワークショップを開催することもあります。そうすると新聞記事になったりすることがあるものですから、そういったのを演者さんにお願いして交渉したりすることがよくあります。

- 皆さん忙しいと思うのでなかなか難しいかもしれませんが、事前にパンフレットなども作成されると思いますので、それを事前にまたみんなで共有するとお互いに集客が伸びるのではないかなと思いました。

- もちろん外から集客することもすごく大事なんですけど、地域活性化ということを考えていくと、ただ単に外から人が来たりとか、有名なミュージシャンを呼んだりとかということではなくて、住んでいる人が自分たちのできることを磨いていって内輪で盛り上がって、そこからまた外に広がっていくことがすごい大事なんじゃないかなと思いました。単に来場者数だけで判断するのではなく、地域活性化とはどういうことなのかということを、他の目線でも考える尺度があったらいいんじゃないかなと思いました。

第46回高知県芸術祭文芸賞

募集要項

募集要項

募集部門

短編小説（一人一編）
詩（一人一編）
短歌（一人三首以内）
俳句（一人五句以内）
川柳（一人五句以内）
※（　）内は応募できる作品数

作品送付先

〒七八一―八一二三　高知市高須三五三―二
（公財）高知県文化財団内
「高知県芸術祭執行委員会事務局」あて

締切日

平成二十九年九月二十九日（金）当日必着

選賞

「高知県芸術祭文芸賞」（各部門に一編）
「高知県芸術祭文芸奨励賞」
（短編小説部門は二編、他部門は五編）
その他、佳作が選出される場合もあります。

応募の注意事項

類似（類想）作品の存在が明らかになった場合や、盗作が疑われる場合は、賞の発表後でもこれを取り消すことがあります。その場合に発生した著作権侵害に関わる問題は、応募者の責任となります。また、取り消しにより生じた損害（経費）については応募者に負担していただきます。

応募条件

未発表作品に限り、応募者は高知県在住者に限ります。
※私的な会や学習会で発表した作品、メンバー内での回覧、資料とするための目的で活字化した作品は「未発表」とみなします。
※その他、右記の基準等に則して、事務局が判断する場合もありますので、ご了承ください。

作品への記載事項

①部門名
②氏名（フリガナ）※ペンネームで使用の場合は併記
③住所　④電話番号　⑤年齢
①～⑤を必ず明記してください。記載場所等は部門ごとに異なります。（下記表参照）
鉛筆またはシャープペンシルの場合は、HB以上で濃くはっきり大きく書いてください。

部門ごとの注意事項

部門	記載方法・注意事項
短編小説	■作品本文は四百字詰原稿用紙十枚以内。 ■パソコンの場合、二十字×二十行で設定してください。フォントは十二以上。 ■必ず、作品本文にページ番号をふってください。ホッチキス留めは不要。 一枚目…タイトルを明記 二枚目～十一枚目…作品本文 十二枚目…部門名・氏名・住所・電話番号・年齢を明記。
詩	■作品は本編四百字詰原稿用紙二枚、三十七行以内。 一枚目…一行目上方に部門、作品名、二行目下方に氏名を記入。（三行目はあけて）四行目から作品本文を書き始めてください。 三枚目…住所・電話番号・年齢を明記。
短歌 俳句 川柳	■通常はがきを使用してください。 ※学校から、まとめて応募の場合は、はがきサイズの用紙へ記入しても可。 ■全部門とも自由題。作品は楷書・タテ書きで書いてください。 はがき表面に部門名を必ず記入してください。（平成二十九年六月より通常はがきは五十二円→六十二円へ引き上げ改定されています。ご注意下さい。） 氏名・住所・電話番号・年齢は作品末尾に記入してください。

発表について

①入選者名は十一月上旬、文芸賞受賞作品の全文は十一月中旬～下旬頃、高知県芸術祭公式ホームページ上でそれぞれ発表予定です。
②入選作品は「高知県芸術祭文芸賞入選作品集」に掲載します。
③文芸賞および文芸奨励賞受賞者の方は、表彰式において表彰状と副賞が授与されます。佳作受賞者には表彰状が授与されます（郵送予定）。（表彰式／十二月十七日（日）高知県立文学館ホール（予定））

その他の注意事項

※応募作品は返却しません。
※個人情報は、運営上の管理及び本人への連絡の用途に限り、利用させていただきます。ただし、入選作品については、在住市町村名、氏名、年齢を公表します。
※入選作品の著作権は、高知県及び（公財）高知県文化財団が所有します

《文芸賞作品募集チラシ》

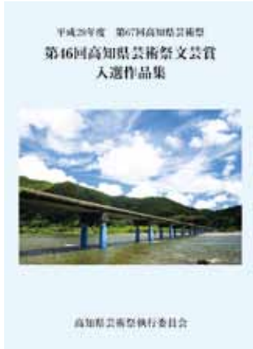
■応募状況と入選者数

	応募総数	応募人数	文芸賞	奨励賞	佳作
短編小説	43編	43人	1	2	0
詩	69編	69人	1	5	5
短　歌	414首	185人	1	5	5
俳　句	633句	142人	1	5	9
川　柳	456句	98人	1	5	6
合　計	1615作品	537人	5	22	25

※受賞者名と受賞作品名は43頁参照

■表彰式

開催日：平成29年12月17日（日）
会　場：高知県立文学館ホール
※表彰式への出席は、文芸賞・文芸奨励賞受賞者



《文芸賞入選作品集表紙》

■副 賞

文　芸　賞	表彰状、高知の逸品セット（土佐古代塗≪汁椀２客・箸２膳・箸置き２個≫、高知カタログギフト「結」、土佐旅福 手ぬぐい）、図書カード
文芸奨励賞	表彰状、高知の逸品セット（土佐古代塗≪箸２膳≫、土佐旅福 一筆箋・手ぬぐい）、図書カード
佳　　作	表彰状、図書カード

平成29年度　第46回高知県芸術祭文芸賞　入選作品一覧

部門名	受賞名	名前(ペンネーム)	作品　＊小説、詩は作品名
短編小説	文　芸　賞	嶋　野　　幸	鬼の棲む場所
	文芸奨励賞	星　野　　巡	夏祭り
		伊　藤　洋　二	泡沫（うたかた）散るらん
詩	文　芸　賞	笹　岡　紀美子	カヨばあちゃん
	文芸奨励賞	重　田　　雅	何色
		甫　木　恵　美	潮江橋
		國　友　　積	後悔
		和　田　由　香	昨日の明日
		下　元　真　人	母とミサイル
	佳　　作	岡　本　敏　之	お前だけが
		鈴　木　　倫	バスケットボール
		西　山　幸　一	老父母と農業
		松　原　一　成	海への憧れ
		やまさき・たどる	モノローグ
短歌	文　芸　賞	中　山　恭　子	孫と夫男同志の背を丸め秋の厨に碁を打ちてをり
	文芸奨励賞	奥　宮　武　男	コスモスの一枝をもちて出でてゆく仮設住宅最後の一人
		宮　地　咲　実	踊り子の列の後ろを引き締めて広いフラフを振る兄がいた
		松　﨑　飛　陽	春風がたんぽぽ連れて旅に出る着いた所は屋根の上だよ
		北　岡　永　遠	虹を見る明日いいことありそうだ七色だから七ついいこと
		曽　我　佳　代	考えて悩んだあげくに更新す仕事場まではまだ要る車
	佳　　作	高　橋　治　光	ゆず玉をひとつ湯船に揺らしつつ思うは遠き遠きふる里
		多　賀　一　造	祝宴の焚火赤々と闇を照らし踊る漁夫らは影絵のごとし
		廣　澤　櫂　士	授業中カメムシ外からのぞいてる授業を受けたい気分なのかな
		西　森　政　夫	散骨を願いし翁は川漁師子や孫の手で川へと還る
		川　上　理　恵	貧しくともここは原発阻止したる里ぞと空に照る秋の月
俳句	文　芸　賞	山　下　正　雄	素麺干す青海原を裂くように
	文芸奨励賞	高　橋　治　光	影ひとつ背向（そがい）に伸ばす冬遍路
		山　﨑　光　子	少年十五歳（じゅうご）鰓呼吸してプール出る
		矢　野　重　雄	裏畑で芋掘り中と貼り紙す
		山　﨑　紀美子	山寺の障子しめたる白露かな
		片　岡　幸　枝	漬物と煮物間を置き大根蒔く
	佳　　作	明　石　韮　生	炭焼きて梁山泊を起（た）ちあげむ
		高　松　一　港	ひとつづつ書き出す母の年用意
		松　村　知　香	遠山をなお遠くして鬼やんま
		西　込　と　き	掃苔や移民の裔の故郷へ
		徳　弘　賀年子	流灯のひとつを母として送る
		石　坂　陽太郎	炎昼や土まで錆びし造船所
		中　山　久美子	糶台に燦と室戸の金目鯛
		石　崎　雅　男	満月に生みおとしたる土佐和牛
		浜　田　　節	赤道のごとっと動く大暑かな
川柳	文　芸　賞	近　藤　真　奈	宇宙が読んでる地球という漫画
	文芸奨励賞	濱　田　久　子	おぼろ月卵のようになり眠る
		岡　林　裕　子	ガムシャラをあばら骨からつまみ出す
		徳　永　逸　夫	雑学がいてややこしくなる示談
		桑　名　知華子	風評にぐらぐらぐらと百日紅
		竹　内　千恵子	光らない蛍の訳を聞いてみる
	佳　　作	熊　谷　敏　郎	B判で折れば良く飛ぶ爆撃機
		さとみ　み　さ	就活がピアスの穴を突き抜ける
		川　澤　歩　佳	いい事がありそうで無い夏休み
		近　藤　　糾	いないいないばあ父になり母を知る
		土　居　志保子	一本の道を三角形にいく
		藤　田　ゆずあ	あさにでる月はひとりでさみしそう

※名前は入選作品集の記載名

第67回 高知県芸術祭事業実施報告書

一日文化祭「芸事広場（ART PLAZA）」

今年度より新規事業として加わった「一日文化祭」として「芸事広場（ART PLAZA）」を11月5日に高知県立美術館開館記念日関連企画として開催しました。高知で活躍する8名のアーティスト（かわぞえうどう氏、合田裕子氏、タカハシカヨコ氏、fufufuuun bu shinichi氏、hotori氏、poisson est poisson氏、森田浩路氏、結城琴乃氏）によるクラフトマーケットとワークショップを同時に行うことで、個性あふれるアーティストの作品購入はもちろん、同じ空間でワークショップも体験できる画期的な企画となりました。ワークショップ参加費が無料という事もあり、当日は受付開始前から長蛇の列となり、いくつかのワークショップはすぐに定員に達し、急遽追加ワークショップを行うなど、予想以上にたくさんの方にお越しいただけました。

造形・イラストなどを得意とするかわぞえうどうさんには「言葉やイラストのブローチ作り」を行っていただきました。独特なイラストが人気のかわぞえさんに負けず劣らず、子どもから大人まで幅広い参加者が思い思いの独特なブローチを作成し、楽しそうに身に着けていたのがほほえましかったです。

普段から土佐い草を使ったオブジェの考案・販売も手がけている合田裕子さん（土佐市観光Style）には「土佐い草と畳について」というミニ授業を行った後に「土佐い草のサシェづくり」を行っていただきました。日常ではあまり聞く機会のない土佐い草と畳のお話を食い入るように聞く親子も多く、土佐い草の魅力に触れる良い機会になっていました。

紙もの造形作家のタカハシカヨコさんには「オリジナルダンボールブローチづくり」を行っていただきました。子ども達に大人気で定員に達した後も材料が続く限り追加していただき、最終的には47名という定員の2倍以上の方々に参加していただきました。

いつもは絵を描いているfufufuuun bu shinichiさんには「ディジュリドウ体験ワークショップ」を行っていただきました。参加者はオーストラリア大陸の先住民族アボリジニの楽器「ディジュリドウ」の音の出し方などを教えてもらい、その後は美術館の中庭などで音を出し、独特な音色に興味津々の様子でした。

カリンバ作家・奏者のhotoriさんには「ミニカリンバ制作と焼き絵付け」を行っていただきました。数に限りがあるため、受付開始後10分ほどで定員に達してしまうほどの大人気で、運良く参加できた方はカリンバに自分好みの絵付けをし、世界に１つだけのオリジナルカリンバが出来上がっていました。

彫金アクセサリー・ジュエリーを創作するpoisson est poissonさんには「天然石を使ったリングづくり」を行っていただきました。ワークショップで作ったとは思えないクオリティの高いリングが出来、参加者からも「こんな素敵なワークショップを無料で受けていいが？」という驚きの声を聞く事ができました。

陶芸家の森田浩路さんには「絵付け陶芸教室」を行っていただきました。事前に森田さんが作った焼く前のお茶碗やお皿に各々が好きな絵を描き、後日森田さんが焼き上げてお渡しするワークショップで、焼き上がった作品がどうなるのか？色々と想像しながら絵を描くのも楽しみの１つとなっていました。

クラフト作家の結城琴乃さんには「焦がし絵ブローチづくり」を行っていただきました。参加者が選んだ木片にペンキを塗り、ハンダゴテで焼き焦がしながら描き、オリジナルのブローチにしていきます。焦がし方によって全く違う作品になり、参加者の個性がよく出ていたと思います。

一日限りの企画ではありましたが、来場者も多く、とても素敵な企画が実施できました。これもひとえに、関わっていただいたアーティストの皆さま、企画初期から様々な形で協力していただいた高知県立美術館のスタッフの皆さま、そして「芸事広場（ART PLAZA）」にお越しいただいた全てのお客さまのお力添えのおかげと、深く感謝しております。今後も県民の皆さまが文化芸術に楽しく触れられる場をたくさん創っていきたいと思っております。

◎共催行事

※　記載内容は原則として事業実施報告書の記載に則しています。
※　開催日（部門別）の順に掲載しています。

部門名	行　事　名	主　催　団　体	日　　程	会　　場	参加者数（人）	行事内容と成果等
舞踊・ダンス	高知パフォーミング・アーツ・フェスティバル2017カンパニーXY「夜はこれから」（日本ツアー）	高知県立美術館	平成29年10月９日（月・祝）	高知県立美術館ホール	399	現代サーカスという珍しい舞台公演でしたが老若男女に幅広く受け入れられ、前売券が完売するほど大盛況だった。アクロバットの技が繰り広げられるたび歓声が上がり、終演後のスタンディングオベーションが作品力と満足度を証明していた。
美術	チームラボ 踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地	チームラボ2017高知実行委員会（高知県立美術館、さんさんテレビ）	平成29年８月５日（土）～９月24日（日）	高知県立美術館	68,180	独創的なデジタル事業を展開するチームラボの国際的に評価の高いアート作品と、親子連れに人気のある参加型作品「未来の遊園地」を併せて公開。会期中、夏休みの親子や家族連れをはじめ、多くの方が来場し、美術館利用者の裾野を大きく広げることができた。
	石元泰博・コレクション展 「東京―山手線界隈」	高知県立美術館	平成29年８月８日（火）～11月26日（日）	高知県立美術館２階・石元泰博展示室	4,599	1980年代、バブル景気を挟み変貌していく東京の姿を8×10インチの大判フイルムに撮影した≪山の手線・29≫のシリーズを取り上げ、前期・後期とあわせて60点を紹介した。学校団体来館や、開館記念日などもあり、多くのお客様にご覧いただいた。
	シャガール・コレクション展「サーカス」	高知県立美術館	平成29年９月５日（火）～10月24日（火）	高知県立美術館２階・第1展示室	1,775	マルク・シャガールによる挿画本『サーカス』所収のリトグラフ作品を展示した。会期中に美術館ホールで、フランスの現代サーカス団「カンパニーＸＹ」による公演「夜はこれから」を開催したため、カンパニーＸＹのメンバーに展示作品を鑑賞していただくこともでき、当館の広報紙にその様子を掲載するといったコラボレーション要素を持たせることもできた。
	第21回高知県障害者美術展（スピリットアート）	高知県、高知県障害者美術展実行委員会	平成29年10月6日（金）～10月15日（日）	高知県立美術館１階・第4展示室	5,530	1,155点の応募作品のなかから、253点を展示しました。独創的で感性溢れる作品の数々は、訪れた多くの人に感動を与え、障害のある方への理解につながっていることが感じられます。
	コレクションテーマ展（２） 「高知の洋画」	高知県立美術館	平成29年10月18日（水）～平成30年１月14日（日）	高知県立美術館１階・第4展示室	4,401	高知県にゆかりのある洋画家による明治期から昭和期の作品を中心に展示したことで、高知県内の洋画史が通覧できる内容となった。また、平成28年度の新規収蔵品も公開することができた。
	コレクションテーマ展（３） 「高知の版画」	高知県立美術館	平成29年10月26日（木）～平成30年１月10日（水）	高知県立美術館２階・第1展示室	4,501	明治以降の高知県にゆかりのある版画家の作品を一堂に展示した。当館で同時開催した「高知の洋画」展と合わせて、高知の郷土美術史を振り返る内容となった。また、高知国際版画トリエンナーレの高知県立美術館賞受賞作をすべて公開した貴重な機会であった。
	高知県立美術館二大コレクション展 マルク・シャガール―祝祭のパリ 石元泰博写真展―シカゴ、シカゴ	高知県立美術館	平成29年10月28日（土）～平成30年１月８日（月・祝）	高知県立美術館第２・３展示室	5,159	平成30年に開館25周年を迎える高知県立美術館。この大きな節目を記念し、平成29年から30年にかけて、当館が世界に誇る二大コレクション、マルク・シャガールと石元泰博の作品を一挙に公開した。見込みには達しなかったものの、美術愛好家を中心に多くの入場者で賑わった。また実施したアンケートによると、規模、内容ともに世界的水準であることを称賛する声が多く寄せられるなど、来館者には概ね満足していただけたと思われる。
	石元泰博・コレクション展　「色とことば」	高知県立美術館	平成29年11月28日（火）～平成30年4月1日（日）	高知県立美術館２階・石元泰博展示室	502 ※12月17日までで集計	多重露光という手法で生み出された鮮やかなカラー写真群は、石元泰博が半世紀にわたって取り組んだシリーズである。1973年からは竹中工務店の季刊誌『アプローチ』の表紙を飾り、数冊の写真集にもまとめられている。本展では、2008年に発行された写真集『めぐりあう色とかたち』に掲載された作品を、石元自身の言葉とともに紹介。モノクロームの作品世界が印象強い石元の新たな作品世界としてお楽しみいただいた。
映画	高知県立美術館秋の定期上映会 「パリ、シカゴ～映画の中の風景」	高知県立美術館	平成29年11月18日（土）・11月19日（日）	高知県立美術館ホール	296	今回は二大コレクション展の関連上映会としてパリとシカゴに関係のある作品の上映を行った。パリの映画はパリの風景を、シカゴの映画はシカゴの雰囲気を味わえる作品で、お客様に満足頂いた。
文芸	高知県立文学館　開館20年特別企画 文学館の文化祭～開館20年の軌跡とその未来～	高知県立文学館	平成29年９月23日（土・祝）～11月12日（日）	高知県立文学館２階・企画展示室	2,081	開館20周年を記念して、所蔵している貴重な資料約7万点のから9名の作家の資料と雑誌「風景」を中心に展示した。記事の連載掲載等、マスコミには大変お世話になった。収蔵展における課題も見えたので、今後もクオリティーの高い、県民のニーズにあった展覧会開催に向けて努力して行きたい。
	第20回児童生徒文学作品朗読コンクール 県審査及び記念講演会	高知県立文学館	平成29年11月12日（日）	高知県立文学館１階・ホール	892	朗読を通して文学に親しむ子どもたちを育てたいと願い、毎年開催している。今回は139名が参加し、18校24名が県審査に出場した。特別審査委員の西村繁男氏による講演会、サイン会を行った。観覧者数は、延べ892名であった。

総合文化	企画展 大政奉還150年記念大政奉還と土佐藩	高知県立高知城歴史博物館	平成29年9月15日（金）～ 11月27日（月）	高知県立高知城歴史博物館	41,222	大政奉還から150年という節目の年に、大政奉還への道のりを振り返る企画展を開催したことは、土佐藩や土佐ゆかりの志士たちの活躍を広く県民の皆様へ知らせることにつながった。
	特別展 「今を生きる禅文化　―伝播から維新を越えて―」	高知県立歴史民俗資料館	平成29年10月14日（土）～ 11月26日（日）	高知県立歴史民俗資料館 ３階総合展示室・１階企画展示室	11,564	京都をはじめとした県内外の禅宗寺院から、約100件の寺宝を借用し展示した。そのうち、約30件が国宝、重要文化財であり、鎌倉時代以降、日本文化の形成に大きく影響した禅文化の名宝を一挙に観覧できるということで県内外から多くの方々に来場いただいた。また、土佐が生んだ高僧たちや、明治維新後の廃寺からの復興といったこれまで展覧会で取り上げられることの少なかった視点を盛り込むことによって、初公開の資料や展覧会初出品の仏像なども展示し、今後の研究の布石を打つことができた。
	古代ものづくり体験教室 （ガラス玉づくり、琥珀勾玉づくり）	高知県立埋蔵文化財センター	平成29年10月14日（土）ガラス玉づくり 平成29年11月25日（土）琥珀勾玉づくり	高知県立埋蔵文化財センター	40	ガラス玉づくりは、初めはうまく形にならず、担当者がサポートを行い完成する。参加者の感想から、造ろうとしていた形、色合いと違うものが出来る驚きと次は違う色にしてみたいなど、創造することの楽しさを感じていることが分かる。
	ハロウィンペンダントを作ろう！	（公財）高知県文化財団	平成29年10月14日（土）	イオンモール高知専門店街 １階セントラルコート	47	様々な色付けをされたマカロニやビーズに紐を通してまずはペンダントを作成。さらにハロウィンにちなんだ様々な装飾を作り、グルーガンを使ってペンダントに取り付けることによって個性豊かなハロウィンペンダントがたくさん出来上がりました。
	特別展「モノからわかる城下町ヒストリー」	高知県立埋蔵文化財センター	平成29年10月14日（土）～ 平成30年３月30日（金）	高知県立埋蔵文化財センター	831	期間中は、展示品解説や近世研究の第一人者による特別講演を行った。参加者の感想から、現在の市街地に江戸時代の町並みが残っていることも分かり、展示品から見える当時の暮らしぶりにも思いを寄せることができたことが分かる。
	龍馬・慎太郎没後150年シンポジウム 〈坂本龍馬・中岡慎太郎暗殺の真相を考える〉	高知県立坂本龍馬記念館	平成29年11月11日（土）	高知県立美術館ホール	343	2017年は、坂本龍馬と中岡慎太郎が京都で暗殺されて丁度150年にあたることから、桐野作人氏による講演と、桐野氏と幕末関係の県内3施設の学芸員によるシンポジウムを開催した。「龍馬暗殺」という多くの方が関心を寄せるテーマであったことから、県外からの来場者もあり、また、約7割の方が「大変よかった」「よかった」と感想をくださった。
	クリスマスミニコンサート	（公財）高知県文化財団	平成29年12月17日（日）	イオンモール高知専門店街 １Ｆセントラルコート	60	子ども達はクリスマスソングを聴くだけでなく、歌に合わせた人形劇を楽しんだり、曲に合わせて鈴を鳴らしたり、終始飽きる事なくとても楽しんでいました。演奏後は体験コーナーもあったので、ちょっと緊張しながらヴァイオリンを弾く姿が印象的でした。

第67回 高知県芸術祭事業実施報告書

◎協賛行事

※　記載内容は原則として事業実施報告書の記載に則しています。
※　開催日（部門別）の順に掲載しています。

部門名	行　事　名	主　催　団　体	日　　程	会　　場	参加者数（人）	行事内容と成果等
演劇	「びったれの証」　ー作家 上林 暁の生涯ー	劇団the・創	①平成29年10月７日（土） ②平成29年10月28日（土）	①ふるさと総合センター（黒潮町） ②春野ピアステージ（高知市）	①200 ②312	黒潮町、あかつき文学館の大きな支援をうけ「上森暁の生涯」を上演できました。地元黒潮町では観客の熱い思いが伝わり暁はこの地で今も生き続けているんだなあと実感しました。高知公演の後、暁がますます好きになった。この作家の事を知らなかったが暁の本をよみたくなった等の声は私達劇団員の今後の大きな励ましとなりました。
	ヨーロッパ企画第36回公演 「出てこようとしてるトロンプルイユ」	高知県立県民文化ホール	平成29年10月14日（土）	高知県立県民文化ホール・グリーンホール	422	今回で3回目となるヨーロッパ企画の本公演は今年も完売となった。例年以上にチケットの動きが早かったのは知名度も上がり、人気も定着してきたからと思われる。今後も継続して実施したい。
	岡部徳治　卒寿記念 喜多流回雪臺高知栗谷会 秋の会	喜多流回雪臺高知栗谷会	平成29年10月15日（日）	高知県立美術館 能楽堂	100	プロの参加があったにしても所詮、我々素人の演技が主体で歳には勝てません。会員の増強も出来ず、減少のまま、ここ数年続いています。今だ模索中です。
舞踊・ダンス	Modern Ballet Studio SPROUT 発表会	Modern Ballet Studio SPROUT	平成29年10月21日（土）	高知県立県民文化ホール・オレンジホール	1,270	出演者一人一人がいきいきと踊り一年間の成果を発揮し大勢のお客様より温かい拍手をたくさんいただきました。第1部「世界の民謡」第2部「となりのトトロ」
	第64回内山時江モダンバレエ公演「誰もやれないことをやるＶｏｌ.1」ーアラジンー	内山時江モダンバレエ研究所	平成29年11月10日（金）	高知県立美術館ホール	100	開場前の入口野外にてのパフォーマンスから始まり、ステージ上に客席を設置した空間演出にて上演した今回の公演「アラジン」。お客様が演者と一体感を持って魔可不思議な世界を楽しんでいただき好評でした。
	Dance　Archive　Project	NPO法人ダンスアーカイヴ構想	平成29年12月9日（土）	高知県立美術館ホール	117	アーカイヴ資料をもとに現代ならではの解釈と再現で、1995年に故・大野一雄氏の「睡蓮」を当館ホールにて上演して以来2度目の、大野一雄や舞踏、モダンダンスのスピリッツの再来となった。若年層から当時を知る方まで観劇頂けたことが本企画の意義を示せたと思う。
音楽	ファミリーコンサート 「音楽のおくりもの」	高知県立県民文化ホール	平成29年9月23日（土・祝）	高知県立県民文化ホール・グリーンホール	600	お子様に合わせて選べるコンサートとして、午前・午後の部で内容の異なるプログラムを提供。プロによる名曲の数々に楽器紹介や参加コーナーなど、ご家族で楽しんでいただけました。また出演者によるリコーダーワークショップ「笛の音楽隊」も行い、参加者から好評を得ました。
	33回午後の音楽会：声楽レクチャーコンサート	高知音楽協会	平成29年9月23日（土・祝）	高知県立美術館ホール	247	東京からソプラノ本島阿佐子（国立音楽大学准教授）さんとピアニスト・作曲家の三ツ石潤司（武蔵野音楽大学教授）さんを迎えての演奏会でした。高知在住の方とも共演できた楽しい音楽会でした。聴衆の皆さんが素晴らしい演奏会でしばらく余韻を楽しんで下さったそうです。
	トヨタコミュニティコンサート in 高知 四国フィルハーモニー管弦楽団 創立30周年記念演奏会	四国フィルハーモニー管弦楽団	平成29年9月24日（日）	高知県立県民文化ホール・オレンジホール	1,650	いま最も注目されているピアニスト、辻井伸行さんをソリストに迎えて、ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番を協演できたことは、四国フィルのメンバーはもちろん、会場いっぱいの聴衆の方々にも超一流の音楽を楽しみ喜んでいただくことができました。
	いの混声合唱団 第38回定期演奏会	いの混声合唱団	平成29年10月21日（土）	高知市文化プラザかるぽーと・大ホール	800	いの町出身の故・平井康三郎の作品や、高知で活躍されている瀬戸口重利先生の合唱曲などを演奏。恒例の紅白歌合戦では、朝ドラのテーマ曲や、懐かしい昭和の歌謡曲で盛り上がった。また、今年も女声合唱団コール・グルッペさんの賛助をいただき、華を添えていただいた。
	第８回 琴秀麗会チャリティーコンサート	琴伝流大正琴高知県支部	平成29年10月22日（日）	高知県立美術館ホール	100	8年目の記念に大正琴の演奏と日本舞踊の名取さんの踊りを初めてコラボしました。 また、老人施設からの出演の「大正琴クラブ」の演奏に同じ施設の「ハーモニカクラブ」の演奏をコラボし、両者とも大好評を得ました。 台風という最悪の条件の中でも、メンバー全員が最後まで平常心を保ち演奏会を盛り上げることが出来ました。
	都山流尺八高知県支部 平成29年度定期演奏会	都山流尺八高知県支部	平成29年10月22日（日）	高知市文化プラザかるぽーと・小ホール	80	「三曲演奏」を県民の皆さんに広くご紹介することを目的に開催しました。演奏曲は尺八曲が５曲、糸方との合奏曲が５曲、合わせて10曲としました。尺八独奏曲、少人数や多人数での合奏曲を演奏いたしました。演奏の形式に変化を持たせました。昨年と比べ会員の吹奏力にも一段と向上の跡が見られ、糸方のご協力も得て内容のある演奏会となりお客様に楽しんでいただけたと思います。
	飛鳥に馳せる永遠の夢コンサート	松村紫乃＆グループ琴	平成29年10月27日（金）	高知県立美術館ホール	24	タイトルの曲を菊重精峰に委嘱、初演。蘇我中臣の戦いをテーマに披露。又浪速十二月は大阪の風情を面白くうたった曲や映画サウンド音楽。観客と演奏者が一体となって満足な芸術祭コンサートであった。
	高知コンサートグループ 第65回定期演奏会	高知コンサートグループ	平成29年10月28日（土）	高知県立美術館ホール	244	無事終わりました。台風の近づく中、予想より多くのお客様がいらして下さいました。
	2017年度例会コンサート 青島広志コンサート「ピアノは人と人をつなぐ」	高知県ピアノ指導者協会	平成29年10月29日（日）	高知県立県民文化ホール・グリーンホール	400	青島氏の楽しいおしゃべり、絵を描きながら音楽を体で表現しながらの楽曲説明と華麗なピアノ演奏、又小野氏の美しいテノール独唱もあり、会場は笑いと感動に溢れ音楽の楽しさを存分に味わっていただく事ができました。

第67回 高知県芸術祭事業実施報告書

音楽	スズキ・メソード高知支部ヴァイオリン科 第57回定期演奏会	スズキ・メソード高知支部	平成29年10月29日（日）	高知市文化プラザかるぽーと・小ホール	75	台風接近の悪天候の中、ご来場下さった方々に感謝申し上げます。お客様はリピーターの方が多く、顔馴染みとなった出演者（幼児から高校生）の1年の成長ぶりを聴き届けて下さる、そんなあたたかい演奏会だったと思っております。まだ参加回数の少ない小さな子は、おにいさん、おねえさんのようになりたいと刺激を貰えたようです。日々のお稽古への意欲に繋がることを願っています。
	下八川圭祐記念 第41回高知音楽コンクール	（公財）高知新聞厚生文化事業団	平成29年11月3日（金・祝）	高知県立県民文化ホール・グリーンホール	34	5部門全部（打・弦・管楽器、声楽、ピアノ）に出場申込があり、35人となった（一般22人、高校生13人、欠席1人）。 下八川賞１位に高校生（クラリネット）が選ばれ、高校生の１位は８年ぶり（前回当時の名称は高知音楽優秀賞）。
	高知コーラス合笑団 第59回定期公演	高知コーラス合笑団	平成29年11月３日（金・祝）	高知県立県民文化ホール・オレンジホール	776	当日はお天気にも恵まれ、開場前から多くの方に並んでいただき、開場と同時に1Fの多くの席が埋まりました。今年は「祭り」をテーマに踊りを入れた動きのある曲を多く取り入れ、又、皆で歌いましょうのコーナーでは、いずみたく氏の「ともだち」を取上げ、客席との一体感が持てました。来場客は昨年より、若干少なかったものの、多くの方に最後まで聞いていただき、成功のうちに終了しました。
	高知フライデーウインドアンサンブル 第36回定期演奏会	高知フライデーウインドアンサンブル	平成29年11月４日（土）	高知県立県民文化ホール・オレンジホール	946	吹奏楽の３部ステージ構成で実施しました。１部はクラシックステージ、２部は宮沢賢治の「おきなぐさ」「やまなし」の世界観を朗読と音楽で表現しました。３部は、ポップステージとし演奏会を行いました。
	第3回ヤマハジュニアピアノコンクール ～西南地区大会～	ジュニアピアノコンクール実行委員会	平成29年11月５日（日）	四万十市立文化センター・大ホール	200	西南地区在住のピアノ学習者（幼～中学生）を対象としたピアノコンクール地区予選。昨年、四国大会に出演した方々の演奏も披露されました。参加者の皆さんは、日頃の練習の成果を充分発揮されたと思います。
	第25回 高知県民謡まつり	高知県民謡協会	平成29年11月12日（日）	高知県立美術館ホール	200	民謡協会加入団体が参加し、7団体の三味線・尺八に合わせて唄うオープニングに始り、全国の民謡を中心に、それぞれの団体の特徴を活かした三味線・尺八・太鼓の演奏やその伴奏に合わせての唄や踊りを披露しました。
	第14回もみじまつり （野外音楽祭＆収穫祭バイキング）	中津川集落活動センター「こだま」	平成29年11月12日（日）	大正中津川 久木の森山 風景林	120	野外コンサートの演奏者は10年ぶりにジャズ：「山地高トリオ（サクソフォン・ピアノ・ベース」を実施、当日は近隣において複数のイベントを行っているにも関わらず、予想以上の来場者であった。
	高知交響楽団第159回定期演奏会	高知交響楽団	平成29年11月26日（日）	高知市文化プラザかるぽーと・大ホール	508	1994年より16年以上にわたり指導していただいた前田昌宏氏の久しぶりの指揮。情熱的で力強い前田サウンドで高知交響楽団らしさを発揮することができた。聴衆にも大変好評であった。
	県民が歌う第九演奏会	高知県立県民文化ホール	平成29年12月17日（日）	高知県立県民文化ホール・オレンジホール	1,600	高知新聞広告で募集した一般県民に高知県合唱連盟が加わって180人の合唱団を編成。オーケストラは四国フィルハーモニー管弦楽団。指揮：澤和樹東京藝大学長、ソリストに小玉友里花・小原伸枝・藤原海考・小原浄二の４氏を招聘。本番当日、客席は満員となった。
美術	いの町紙の博物館特別展・企画展 向陽会絵画教室展	いの町紙の博物館・野並允温	平成29年8月29日（火）～ 9月24日（日）	いの町紙の博物館	2,081	向陽会絵画教室で学んだ教室生の描いた作品約60点を展示。来館者に土佐和紙の魅力を伝えた。
	いの町紙の博物館特別展・企画展 野並允温個展	いの町紙の博物館・野並允温	平成29年8月29日（火）～ 9月24日（日）	いの町紙の博物館	2,081	画家野並允温氏がふるさとの風景を描いた水彩画約60点を展示。すべて土佐和紙を使って描かれており、来館者に土佐和紙の魅力を伝えた。
	いの町紙の博物館特別展・企画展 西井寿視　和紙人形遺作展	いの町紙の博物館	平成29年９月２日（土）～ ９月24日（日）	いの町紙の博物館	1,947	浮世絵に魅せられ、巧みな想像力と工夫で作り上げられた江戸風俗紹介の作品約140点を展示。細部にまでこだわって和紙で作られた人形の数々に、観覧者が見入っていた。
	第26回のいち動物公園写真コンテスト作品展	（公財）高知県のいち動物公園協会	平成29年９月10日（日）～ 11月３日（金・祝）	高知県立のいち動物公園・どうぶつ科学館	8,038	予定では、11/３までの開催予定であったが11／５まで延長。応募者は、５歳から85歳の方まで幅広い年代で、今年は高校生の応募も目立ち、昨年より100点ほど応募数が増加した。楽しい作品展を行うことができた。
	いの町紙の博物館特別展・企画展 第10回高知国際版画トリエンナーレ展	土佐和紙国際化実行委員会	平成29年10月７日（土）～ 12月３日（日）	いの町紙の博物館	8,833	和紙文化と版画文化の発展を願い、和紙の産地「いの町」で1990年から３年に１度開催されており、今回で10回目を迎えた。厳正なる審査を勝ち抜いた入賞・入選作品168点を展示。過去３番目に多い来場者数となった。会期中には夜間開館のイベントも開催し、多くの方に土佐和紙と版画文化に触れてもらうことができた。
	第58回室戸市美術展覧会	室戸市美術展覧会	平成29年10月24日（火）～ 10月29日（日）	室戸市勤労者体育センター	593	公募展を開催し、洋画の部20点、日本画の部12点、書道の部（漢字）20点（仮名・調和体）12点、写真の部40点、陶芸の部26点、彫塑・工芸・デザインの部19点、漫画の部3点の応募があり、各部門ごとに審査後、展示を行った。
	『三本桂子・まちかどミモリョーシカと絵本原画展』"つながっているよ"	すさきまちかどギャラリー	平成29年10月27日（金）～ 11月19日（日）	すさきまちかどギャラリー	754	県内作家を紹介する機会となった。作家はリサーチの為、須崎市へ通い、多くの市民と交流を深めた。リサーチ後に完成した須崎の町のジオラマは、市民から好評を得た。また本展を通して作家と交流した来館者が、その後高知市内で開催された作家WSに通うなど、交流が継続している。

第67回 高知県芸術祭事業実施報告書

美術	記憶の街 ー記録写真は時代を歩くー武吉孝夫写真展	香美市立美術館	平成29年10月28日(土)～ 12月17日(日)	香美市立美術館	3,603	武吉孝夫写真展は、来場者の多くが自身の記憶をたぐり寄せ、夢中になって過去の思い出に浸ることのできる場となった。テレビや新聞などのマスコミに取り上げられたこともあって、多くの来館者を得ることができた。
	第17回高知連合選抜書展	安芸市・安芸市書道振興協議会	平成29年10月29日(日)～ 12月3日(日)	安芸市立書道美術館	549	高知県内17書道団体を代表する書家195人の個性あふれる多彩な作品が展示され好評であった。また、2回行われた解説会には多くの参加者があり、他団体のさまざまな作品を鑑賞することで、勉強の場としての評価も得た。
	公募作品展 第19回OURギャラリー展	公益財団法人やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団	平成29年11月18日(土)～ 平成30年１月８日(月・祝)	香美市立やなせたかし記念館・別館	2,888	全国の１歳から92歳までの方から応募のあった「とぶ」がテーマの５・７・５調の詩と絵をかいたはがき作品全905点を展示。来場した方からは「どれも個性の良さが出ていてよかった」といった声が寄せられた。
	第28回中岡迂山記念全国書展	中岡迂山展実行委員会	平成29年12月2日(土) ～ 12月10日(日)	北川村民会館・大ホール	186	9日間開催し、初日に表彰式を行った。出品作品は一般の部、高等学校の部とも前回より増加したが、入場者数は前回に比べ減少した。また、今年で3年目となる当書道展と安田町、田野町との「三町村合同書画展」を開催した。
映画	シネマの食堂2017　オープニング上映会 映画「ブランカとギター弾き」	高知県映画上映団体ネットワーク	平成29年９月29日(金)	高知県立美術館ホール・中庭	210	シネマの食堂10周年の節目の年の上映会でした。当日は天候も良く、中庭での野外上映がとても気持ちよくお客さまも喜んで下さいました。カフェの出店もが、上映作品の雰囲気にもあって好評でした。
	とさりゅう・ピクチャーズ上映会 映画「東京ウィンドオーケストラ」	とさりゅう・ピクチャーズ	平成29年10月15日(日)	高知市立自由民権記念館ホール	150	コメディ作品の上映で、参加者みんなでクスクス笑いながら鑑賞する上映会となりました。映画を映画として大画面でみんな観るという、映画の魅力をお届けできたと思います。
	シネマな夜VOL.212 「ミツバチのささやき」	シネマ・サンライズ	平成29年10月26日(木)	高知県立美術館ホール	198	スペインの名匠ビクトル・エリセ監督の長編デビュー作にして、繊細で美しい映像とその不思議な世界に魅了されているファンも多い作品。全国で展開されている「the アートシアター」シリーズの第一弾を、高知でも上映することが出来て良かった。こういう作品が、観る者の映画の概念を広げてくれる。
	県文シネマ日和Vol.3 「お嬢さん」	高知県立県民文化ホール	平成29年11月14日(火)	高知県立県民文化ホール・グリーンホール	200	「県文シネマ日和」と題した県民文化ホールとシネマ四国による定期上映会シリーズの第3弾。R-18指定作品ということもあり、広報宣伝に苦労したが、結果的には200名のお客様に鑑賞していただいた。これからも年に3回程度、上映会を実施していく予定である。
放送	「みてみて高知12468」デザイン画募集＆表彰ステージ	みてみて高知12468キャンペーン事務局	募集：平成29年８月１日(火)～ ９月30日(土) 表彰式：平成29年11月３日(金・祝)	テレビ放送、県立美術館（表彰式＆ステージ）	300	県内４つの放送局が実施する「みてみて高知12468」キャンペーンの一貫として、放送文化の振興とクリエイターの発掘を目的に、８月～９月末、来年の成人式で配布するクリアファイルのデザイン画を募集した。応募は、県内外から35作品。漫画家の村岡マサヒロさんを審査委員長として、最優秀賞１点、特別賞３点を選出。県立美術館開館記念行事初日の11月３日、中庭で表彰式を行った。合わせて11/3～5、県民ギャラリーで全作品を「12468クリアファイルデザイン画」として展示。多くの県民に足を運んでいただいた。
映像	のいちdeナイト　プロジェクションマッピング	（公財）高知県のいち動物公園協会	平成29年９月23日(土・祝) 平成29年10月８日(日)	高知県立のいち動物公園・ピクニック広場	5,977	今回はピクニック広場のふわふわドームと後方の植栽に投影しましたが室内でやるより好評で来年も同じ場所で開催する予定としました。
文芸	企画展 「吉井勇、日本の伝統文化と芸能を詠う」	香美市立吉井勇記念館	平成29年９月６日(水)～ 12月24日(日)	香美市立吉井勇記念館	278	展示期間中には音楽イベント等を開催し、幅広い年齢層の来館者があり、吉井勇の短歌とともに、勇が親しんだ古典芸能の世界観にふれていただく機会を得られました。
	しきなみ短歌の世界（初めての短歌教室）	家庭倫理の会・高知	平成29年11月５日(日)	高知市立自由民権記念館	47	11月5日、1時30分より2時間、講師を含め、未会員8名、合計47名で「初めての短歌教室」を開催致しました。短歌のやさしい作り方の講話の後、実習、作品の後評、記念撮影と和やかで楽しい会となりました。まだ確定ではありませんが、2名の方が短歌を始めてくださりそうです。
伝統文化	第19回名流吟剣詩舞道大会	財団公認　高知県吟剣詩舞道総連盟	平成29年10月８日(日)	高知県立県民文化ホール・グリーンホール	600	高知県内、各22会派による、2年に1度の詩吟と舞の祭典です。六部構成で行い、幕末維新博にちなんだ合吟や、幼少年による吟と舞など、すばらしい吟舞の構成で、満席のお客さんに、大変喜んでいただきました。
	第71回秋季いけばな県展	（一社）高知県華道協和会	平成29年10月28日(土)・29日(日)	高知市文化プラザかるぽーと・7階第1第2展示室	1,797	会期中、加盟流派会員・子弟により、大小152点のいけばな作品を展示し、1797名の来場者を得、無事終了することができました。
	風雅を楽しむ秋の集い	鵬翔流吟友会	平成29年10月29日(日)	高知商工会館	100	日頃の会員の練習の成果の発表に各流派の剣詩舞の先生方も御参加いただきました。構成吟詠「炎の文豪頼山陽」と題して数々の名詩で山陽の生き様に迫りました。更に明徳義塾高校から、中国からの留学生男子５名、女子２名とお招きして漢詩を中国語で読んでいただき吟じていただきました。女子２名は振袖を着ていただき、日本を満喫していただきました。御来場の県民の皆様にもお楽しみいただけたと思います。

第67回 高知県芸術祭事業実施報告書

伝統文化	伝統文化音楽 地唄・箏曲・尺八本曲演奏会「古典曲への誘い」より	琴古流尺八竹童社藤寿会高知支部	平成29年11月３日(金・祝)	高知県立歴史民俗資料館	38	県立歴民館は現在臨済宗「白隠禅師」に関する展示を開催中で尺八楽の創始である虚無僧の僧籍は臨済宗に属し「普化宗」と云われた禅宗の一派で奇縁を感じつつ前回に同じく50席準備、最大時全席が埋まる程に入場を得た。
	八代青年奉納歌舞伎	八代青年会	平成29年11月５日(日)	八代八幡宮 回り舞台	310	三連休最終日ということもあり、祭冒頭から会場は満員となりました。祭りの主は歌舞伎ですが、冒頭には舞台を清める三番叟もあります。改めて、八代青年奉納歌舞伎を皆様に認識頂く良い年になりました。
	正曲一絃琴白鷺会 秋の演奏会	正曲一絃琴白鷺会	平成29年11月11日(土)	高知市文化プラザかるぽーと・小ホール	160	県内外より約160名のお客様をお迎えしました。終演後、舞台でのお点前のわびさびの世界が伝わってきて、良かったと一絃琴の演奏と共に心に染みるものが有ったとのお声を頂きました。舞台進行も演奏時間が前回より長かったのですが、役割分担が出来て、スムーズに行えました。楽しい演奏会となりました。
漫画	まんさい ーこうちまんがフェスティバル2017	こうちまんがフェスティバル2017実行委員会	平成29年11月４日(土)・５日(日)	高知市文化プラザかるぽーと・高知市中央商店街など	9,690	声優３人のトークショーや人気まんが家のライブペインティングなど盛り沢山の内容で盛り上がりました。商店街でのライブドローイングやスタンプラリーなど無料のプログラムも多く、幅広い世代の来場者に楽しんでいただけたようです。
総合文化	四万十市文化祭	四万十市文化祭執行委員会	平成29年9月18日(月)～ 12月17日(日)	四万十市立文化センター 四万十市立中央公民館 その他	9,642	今年度の文化祭は、9月18日～12月17日までの期間で34団体が参加し、約9642人の入場者数がありました。台風等の影響で昨年度より若干入場者数が減りましたが、事故などもなく無事に終了することができました。
	平成29年度　第46回高知県教育文化祭	高知県教育文化祭運営協議会	平成29年10月１日(日)～ 11月23日(木)	高知県立県民文化ホール 高知市文化プラザかるぽーと 高知教育センター分館 高知市潮江市民図書館 高知大付属小・中学校 高知県立大学 須崎市立市民文化会館 夜須中央公民館 中小企業会館	4,200	「光る感性　たたえよう　土佐の教育文化」のテーマのもと14行事を開催。今年も、子どもたちの文化・芸術活動をたたえるとともに、その成果を多くの県民の皆さんに知っていただくことができた。
	香美市芸術祭	香美市芸術祭実行委員会	平成29年10月１日(日)～ 11月19日(日)	香美市立中央公民館ほか	1,243	香美市芸術祭では香美市文化協会員をはじめとし、多くの出品者、出演者により日頃の鍛錬の成果を発表し、相互間の刺激はもとより各会場に来場いただいた多くの皆様が、文化芸術にふれ交流を深めることができました。
	第22回宿毛市オールドパワー文化展と女のまつり	宿毛市教育委員会・宿毛老人クラブ連合会・宿毛市文化協会	平成29年10月20日(金)～ 10月22日(日)	宿毛市立宿毛文教センター	宿毛市オールドパワー文化展243 女のまつり230	60歳以上を対象とした文化展と宿毛市老連女性部が歌や舞踊、和太鼓など練習の成果を披露する、「女のまつり」と呼ばれる発表会。文化展の出品数は103点。女のまつりは17演目の発表があった。
	第23回日高村文化祭	日高村文化推進協議会	平成29年11月３日(金・祝)	日高村社会福祉センター	404	文化・芸能分野において、村内最大のイベントであり、村民の間でも楽しみの一つになっている。出演者も小学生から高齢者の方まで幅広く熱心に日々研鑽した演技や踊り等を発表し、観客を沸かせた。
	第49回春野町文化祭	高知春野文化協会	平成29年11月３日(金・祝)～ 11月５日(日)	高知市春野文化ホール・ピアステージ	3,133	今年は11月3日～5日と3連休であったため、初日からの入場者数が多く、例年になく盛り上がりが大きい文化祭となった。特に最終日の舞台発表では文化ホールいっぱいの入場者があり舞台発表の演者にも、やりがいのある発表となった。
	放送大学高知学習センター　芸術文化祭2017	放送大学高知学習センター	平成29年11月４日(土)・５日(日)	放送大学高知学習センター	110	美術展覧会、ワークショップ（句会・お箸つくり・水彩画をかこう）、バザー、サークル・同好会による催しなどを開催しました。来場者のアンケートでは多くの方が「楽しかった」と回答しており、大変好評でした。
	第44回いの文化祭	伊野地区文化協会	平成29年11月４日(土)・５日(日)	いのホール、伊野体育館（一部：枝川コミュニティセンター）	500	舞台部門は3年連続いのホールで、展示部門は伊野体育館と枝川コミュニティセンターの2ヵ所に分かれての実施となった。体育館の広さを利用して作品が伸び伸びと展示でき、いのホール他ともに大勢のお客様が来てくださった。
	平成29年度高知県高等学校 総合文化祭	高知県高等学校文化連盟	平成29年11月14日(火)～ 11月19日(日)	高知市文化プラザかるぽーと 高知追手前高等学校芸術ホール	2,400	高知市文化プラザかるぽーと及び高知追手前高校芸術ホールをメイン会場として、文化部の17部門、県下46校2400名を超える生徒が展示や舞台発表を披露した。家族や友人、中学生をはじめとする一般の方々など多くの人々が来場した。
	第10回さかわ・酒蔵ロード劇場2017	第10回さかわ・酒蔵ロード劇場2017実行委員会	平成29年11月18日(土)	佐川町上町地区	6,200	江戸時代の風情漂う佐川町上町地区の白壁の建物に光の切り絵や絵画などの芸術作品を投影し、一夜限りの光の劇場を作り上げた。音楽との融合も図り、大人から子供まで楽しめるイベントとなった。結果、約6200名のお客様へお越しいただき、佐川町上町地区の魅力を知っていただく機会を設けることができた。

〈資料〉

※　共催・協賛行事参加申請の様式（平成29年度用）

第１号様式

平成29年度第67回高知県芸術祭参加申請書

平成29年　　月　　日

高知県芸術祭執行委員長　様

団体名（行事主催団体）

住　所　〒

代表者氏名　　㊞

平成29年度高知県芸術祭に、下記の行事を（　共催　・　協賛　）行事として申請します。

なお、**参加行事として認められた場合、行事についてガイドブック、インターネット等（facebook、twitterなどのSNSを含む）での情報掲載、公開について同意いたします。**

①部　門	○をつけてください。わからない場合はお問い合わせください。 演劇　舞踊・ダンス　音楽　美術　映画　放送　映像　文芸　伝統文化　漫画　総合文化	
②行　事　名		
③日　程	月　　日（　　）から　　月　　日（　　）まで	
④会　場　名		
⑤入　場　料　等（どちらかに○）	無料	有料　（料金を下記にお書きください）

申請結果や内容確認、ガイドブックの校正、ガイドブック送付など事務連絡をさせていただく際の窓口となる方のご連絡先を下記にお書きください。

連　絡　先 ＊楷書でお書きください	①（ふりがな） お　名　前	
	②住　所	〒　　－
	③連絡がとりやすいお電話番号	（　　）　　－　　（自宅・職場） ＊連絡がとりやすい時間があればお書きください
	④メールアドレス	㊞

上記連絡先を問い合わせ先としてガイドブック、インターネット等に掲載することに同意（　します　・　しません　）

条件がある場合、または、上記とは異なる問い合わせ先を公開する場合は、下記に内容をお書きください。

第２号様式

団　体　の　概　要

（会則、規則、組織図など団体の概要が詳しく分かる資料があれば提出してください）

（ふりがな） 団　体　名		設立年月日	年　　月　　日
（ふりがな） 代表者氏名		会　員　数	人 （　年　　月　　日現在）
団体住所	（団体住所がない場合は、代表者住所） 〒　　－		
	TEL	FAX	
主　な 活動内容	普段の活動内容や場所、年間の行事などをお書きください。		

平成 29 年度第 67 回高知県芸術祭公式ガイドブック等　原稿　（1）

◆下記欄に必要事項をお書きください。

◆欄が足りない場合は別紙でもかまいません（①から⑧まで番号をつけてお書きください。）

① 行　事　名　称	
② （ふりがな） 主催団体名称	
③ 開　催　日　時	月　　日（　）～　　月　　日（　） 開始時間　　時　　分　／終了時間　　時　　分 複数回ある場合などは下記欄にお書きください。
④ 会場名・所在地	会場名 会場所在地
⑤ 入場料・参加費等	（　無料　・　有料　）＊どちらかに○をおつけください ◆有料の場合、下記に料金をお書きください。前売・当日、大人・子どもなどの区分がある場合はそれぞれの料金をお書きください。

平成29年度第67回高知県芸術祭公式ガイドブック等　原稿　（2）

⑥ 行事の紹介文 （150字以内） ＊パソコン等で記入される場合は罫線を消していただいても構いませんが、150字以内でお願いします。	

その他

ご意見・ご要望	

◆行事・団体のホームページ：　無　・　有（http://www.　　）

◆芸術祭または文化財団の HP とリンク　：　可　・　不可

平成29年度高知県芸術祭執行委員会　委員名簿

（任期：平成29年４月１日～平成32年３月31日）
（五十音順・敬称略）

	氏　名	所属職名等
1	上本　竹永	高知県文化協会事務局長
2	川浪　千鶴	高知県立美術館企画監兼学芸課長
3	北村　真実	NPO法人こうち音の文化振興会理事長
4	新納　朋代	（株）テレビ高知編成局編成業務部部長代理
5	津田　加須子	高知県立文学館学芸課長
6	布　　達也	高知県立県民文化ホール館長
7	浜田　正博	（公財）高知県文化財団理事長
8	又川　晃世	（株）高知新聞社編集局学芸部長
9	溝渕　博彦	NPO高知文化財研究所代表
10	山口　　隆広	（公財）高知県観光コンベンション協会プロモーション部チーフ
11	吉岡　　一洋	高知大学人文社会科学系教育学部門准教授

平成29年度文芸賞審査員

短編小説	杉本雅史	短歌	市川敦子
	米沢朝子		梶田順子
	若江克己		中野百世
詩	猪野　　睦	俳句	植田紀子
	小松弘愛		橋田憲明
	長尾　　軫		味元昭次
		川柳	小笠原望
			窪田和広
			西川富恵

※五十音順、敬称略

第67回高知県芸術祭事業実施報告書

発行日　平成30年３月23日

発　行　高知県芸術祭執行委員会
高知市高須353-2（公益財団法人高知県文化財団）
TEL 088-866-8013　　FAX 088-866-8008

印　刷　川北印刷株式会社
高知県南国市大埇甲1725-10
TEL 088-863-3151